

幼児の教育

家庭・保育所・幼稚園

第五十三卷 第八號

日本国登録商標特別承認雑誌第六八三号
日本国登録商標特別承認雑誌第六八三号
日本国登録商標特別承認雑誌第六八三号

29.7.8-



日本幼稚園協会



☆お子さまに安心してお薦めできる☆

トツパンのえほん

さざなみ童話絵本 全12集

- | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ⑫ | ⑪ | ⑩ | ⑨ | ⑧ | ⑦ | ⑥ | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 文 | か | ね | 桃 | し | 金 | 浦 | は | さ | さ | こ | 一 |
| | か | ね | 桃 | し | 金 | 浦 | は | さ | さ | こ | 一 |
| | ぐ | み | た | た | 島 | 太 | な | る | る | ぶ | 寸 |
| 福 | や | の | 太 | き | 太 | 太 | さ | と | と | と | 法 |
| 茶 | ひ | よ | め | り | り | り | か | く | ら | か | |
| | | い | | | | | じ | じ | ら | か | |
| 釜 | め | り | 郎 | 雀 | 郎 | 郎 | い | げ | に | り | 師 |
- 各 50 円

愛児絵本

- ◎か 幼 どの ひ じ での の
 あ ず 見 う り も ど ん り り
 い の の つ も こ し や も も
 う え の の あ う し の の
 え ほ う お あ う し の の
 おん た こ び き や や ② ①
- 各 50 円 ◎印 70 円

トツパン 東京日本橋茅場町1の20・振替東京41647

発売！ 新保育用品
 指で描く幼児の粉絵具

まんてんこなえのぐ



- 特 徴
- ☆紙・木・粘土・金属・セルロイド等何にでも塗れます。
 - ☆衣類に着いても簡単に汚れをおとせます。
 - ☆毒性はありません。
 - ☆水で簡単にとけます。
 - ☆色彩が非常に鮮明です。
 - ☆重色も混色も自由です。
 - ☆容器の中で固まることはありません。

十二色・各缶入・一缶八〇円・一二〇CC入
 カタログ贈呈致します

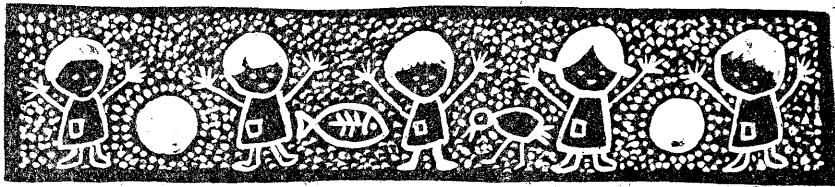
新案特許優良玩具

サーカスクリン

- ◎多角的なおもしろい楽しいあそび方が出来ます。
 変形あそび・輪投げあそび・乗りあそび・工作あそび
 ・輪まわしあそび・団体あそび等
 定価 大型二四〇〇円・小型一四〇〇円
 カタログ贈呈致します。

※御用命は貴園最寄りの弊社代理店又は本社に直接お申しつけ願います。

発売所 株式会社 フレーベル館
 東京都千代田区神田小川町二ノ五



幼児の教育目次 第五十三卷第八号

表紙……………猪熊弦一郎

しつけの基本法則……………波多野完治……………2

新緑大和紀行……………野口明……………5

日本の印象……………ドルトル・ロバート・H・ブラウワー……………14

雲と正太のこと……………坪田讓治……………20

キャンプ場にて……………秋山ちえ子……………22

☆実践記録から☆……盲人のこと……………松村康平……………27

ばけものの世界……………万寺十郎……………29

いろいろえ透視紙芝居について……………木俣武……………33

—— 幼児の環境と生活指導……………菊地ふじの……………37

—— 幼児の体育的経験から……………村田修子……………43

エリザベス・ピーボディと幼稚園……………津守真……………48

編集者	三友雄	及川ふみ	齋藤文雄
主編	倉牛多	川野完治	藤下俊郎
委員	橋島鉄		
協力			(五十音順)

発行 日本幼稚園協會



しつけの基本法則

波多野完治

「親と子との悪い相互関係の原因は、しばしば、親が子どもの年令を考慮することができないためである。親は自分の目のまえで伸び、成長していく子どもの発達に、しばしば気づかない。親には子はいつまでも小さいものに思える。そしてそのゆえに、親はしばしば子の、こまごました世話をやきすぎ、まさに子ども自身に、一歩ふみ出すことを許さないのである。親のこのこまごました世話は、子の成長した力と対立する。」

もう一つ。

「とくに有害なのは、両親のあいだの「家族的口論」である。このときには、両方の側がしばしばおたがいに、重大な悪口と批難とをあげせかける。このような口論は子どもからみれば、かれらの気分を圧迫するように作用する。まったく許しがたいことは、親が口論に子どもをひき入れ、おのおの自分の側につけようと努めるときである。これは破壊的に子どもに作用する。親は子どもをして一方の親に反感をいだかせ、このことによって、自分の威信をも、他方の威信をも低める、これと同時に子どもを自分の側につかせようとすることは、子どもを自分の親に対して、いつわりの困難な状態においこむことになる。」

以上二つの引用をした。一体これはどこの何という本の引用か、とおもうだろうか。

これはソ連の教育学の本からの引用なのである。オゴロドニコフ、シンピリヨフ共著「ソヴェット教育学」の——勿論訳本——家庭教育のところにある。

だが、わたくしには、これはソ連の本ではなくて、日本の家庭教育の本にあってもよいようにおもわれる。日本のだ、といっても、だれもウソとはおもわないだろう。日本の家庭教育論としても立派に通ずる、それ程健全な考えである。

この二つの引用ばかりではない。このソ連の教育学教科書にはこういう「真理」がいたるところにある。鉄のカーテンの向うから、というが、それは決してこっちがわと正反対の人間をつくっているのではなく、こっち側で正しい人間に考えられるものは、向うがわでも——出世が出来るかどうか知らぬが——正しい立派な人間なのであるらしい。

二つの世界、というようになりたい文句でわれわれは、むかい側とこちら側の「差」を、あんまり大きく考えすぎているのではないか、とこのごろわたしは気づきはじめた。

人間の生活には基本的な法則があつて、それがなければ社会生活はほろびてしまうのである。こういう基本法則は昔の社会と、今の社会とで、多少はちがうだろう。ちがわなければおかしが、しかし、その違いのうちにも、ごく大まかな点は「社会存立」というギリギリの線で、共通性がみられるのではないか。ことに、社会生活の最小単位である「家庭」というようなことになると、その共通性は著しく大きくなるのではないか。

こう考えてくると、われわれが、子どもを教育する上で、長い長い間かかってきずき上げてきたやり方——これをまとめたものが、育児法であり、教育学であるのだが——は、人類の文化遺産の一つなのであつて、それをかざるしく棄てることは出来ないものかもしれない。

わたくしなどは、社会の発展を重く考える立場から「新しい社会には新しい教育の方法がある」という

ので、教授法の改革を主張していたのだが、このような考え方は改めなければならないのではないかと、とおもいはじめた。昔からすぐれた教師たちが長い間かかってきずき上げてきた教授法のうちには、非常にすぐれたものがあって、どんな社会になっても生きのこるような基本法則に立っているものが少くないに相違ない。そういう人類の遺産としての基本法則をみつければ、それを定式化する仕事は、われわれの仕事なのではないか、と考えたのである。「しつけ」の方にもそういうことがあるに相違ない。但し、圧制的な社会には、圧制的なしつけが支配的になるので、一つの社会にある「しつけ」の体系のうちどれが「社会の存立に欠くべからざるもの」で、どれが「圧制社会だけに通用するものか」これをえりわけることが大切な仕事だ。そうして、この仕事も教育学の大事な研究の一部門にちがいない。

だが、ソ連の教育学からの引用についてはまだ外の考え方も可能なのである。

それは「ソ連はヨーロッパよりも、アジアに近い」ということである。

ソ連がいわゆる西欧と大変ちがったものをもち、そのちがいは、アジア的なものから来ている、というのはよくヨーロッパ人のいうことだが、前に引用した家庭のふんいきなども、ヨーロッパの家庭よりも、アジアの家庭の一特長なのかもしれない。そうして、アジアの一家庭で、という点で、日本とソ連とはにているかもしれない。

ソ連は社会主義の国で、日本は資本主義の国である。だが、家庭の中、というようなことになる、社会主義も資本主義も、そう大した差がないのではなからうか。

こんな風に、ソ連がアジア的なものを多分にもっているとしたら、余計われわれはソ連の教育学を参考にする必要を多くもつわけだし、鉄のカーテンの向うがわだ、といって、これを毛ぎらいしてはいけなことがわかる。世界中の教育のやり方を、もっともっと広くしらべてみる必要がある。学問の世界は、鎖国ほど損なやり方はない。

新緑大和紀行

野 口 明

カット
(筆者)



五月六日 雨

昨夜東京を後にした急行大和は、名古屋から左折して、伊賀路の新緑を進む。一月前に九州の旅で見た水々しい新緑に再会する思いである。

午前八時過ぎに奈良着、松尾、雨倉両君に迎えられて、一路東大寺境内の松尾君の家に旅装を解く。

四年前に来た時は、氏は副知事として公園脇の官舎に居たが、県政に知事と意見を異にし、潔く官を退いた硬骨の士である。爾来京大寺焼門内に小寓を得て、閉日月を楽しんでいる。

小憩後、雨も趣あるべしと、下検分を兼ねて外に出る。先ず博物館に入る。丁度平安初期展と云う特別陳列に当って居たが、こういう催はエトランゼーには有難くない。常に天平を主にした系統的品列に接しようようにして欲しい。

公園を逍遙してから型の如く春日神社に歩を向ける。参道の両側に並ぶ石燈籠は、其の数千数百と聞く。大小種々の形式があるが、大体六種乃至十種位に分類

出来る由、必ずしも所謂春日形が多いとは限らない。奉獻の年号を見ると、江戸中期のものが多し。私は種々の形をスケッチしたが、何時も感ずる如く、石燈籠の均勢美は極めて微妙で、之位描ぎにくいものはない。

楼門を入ると、拝殿の役をしている弊殿があって、その先は林檎の庭から斜に石段を設けて、中門と廻廊となり、本殿はその中心にかくれている。五十円納めると中門から本殿を拝することが許される。本殿は意外に小さい建築で、四棟並んでいるのが春日の特色である。丁度結婚式があって、白い洋装の花嫁を中心に、林檎の庭で記念撮影をしていた。林檎の庭には林檎の樹が一株あるが、今のは何代目かの稚樹の由である。林檎が果して古くから日本に在ったものか、或は今の林檎とは異種であるか、私は今詮索する暇を持たぬが、臨御の庭の転化とする説もあるようである。

内外の廻廊には金属製の釣燈籠が賑かに釣り並べてある。火袋に透刻された年

月や奉獻者の氏名を見ると石燈籠同様、江戸時代のものが多い。

本殿の裏には七種の樹の同棲する珍木寄生木がある。それを見て西の門を出ると素木造りの閑雅素朴な酒殿と饗殿がある。

宝物殿を見て、普通の順路を若草山の裾から、手向山八幡を経て、二月堂、三月堂と東大寺の境内に入り、バスで市内に行き、専門店を探して画の材料を補充して帰った。

五月七日 雨

雨仕度をして、二月堂に行き、湯屋を写生する。二月堂に隣る古風な茶店で煎餅を喫して、三月堂を拝観する。此処は天平仏の王国で、本尊不空罽索観音をめぐって、日光月光以下教基の仏像が森厳な気分を作っている。裏手の閑寂な中庭が気に入ったので写生箱を開いて描く。

帰路、二月堂の下から大仏殿の裏手へ行く途中で、山の方を振り返って小品を写生する。

註（今度の旅は、美術の観賞や勉強よりも絵を描くことに重点を置いた。従って一作に二時間乃至三時間を要し、その外鉛筆のスケッチもしたくなるので自然日程を緩にせざるを得なかったのである。文中、写生とあるは油絵の写生、スケッチとあるは鉛筆スケッチの意味である。）

五月八日 快晴

朝食前に近くの戒壇院の境内を通り抜けて数葉のスケッチを得る。

松尾夫人に教えられ、藤の多いと云う春日野の東南部の所謂「ささやきの谷」に行く。馬酔木や雑木に藤がまつわり、その下を細流が潺湲と流れる場所である。藤は残花を少量とどめるのみなのは、例年に比して花が早やかだったためか、盛りは一年置きで生憎少い年のためとか聞いた。

藤を断念して、細流を越えて高畑の町に上る。昔は破れ築地が奈良独特の画趣を湛えて洋画家を喜ばした地であった

が、今は新しい家が殖え、糜爛的風景は殆ど見られない。

高畑の町外れに新薬師寺がある。有名な十二神将の塑像を拝観したが、往年程感激しなかったのはどう云うわけであろうか。

境内に会津八一氏の「ちかづきてあふぎみれどもみほとけのみそなはずともあらぬさびしさ」の歌碑がある。傑作の名高かった此寺の香薬師仏を詠んだものであるが、惜しむらくは昭和十八年に盗難に会って今に帰りまさぬのである。

ついでに記すが此の老歌人の奈良との因縁は浅からず、不思議に詩歌の碑の少い此の地に、氏の碑のみは三基もある。即ち東大寺に「おほらかにもろてのゆびをひらかせておほみほとけはあまたらしたり」があり、又春日野に「かすがのにおしてつきのほがらかにあきのゆふべとなりけるかも」があった。然し後者はあまりに好事家が拓本をとるからとて、近頃春日神社々務所に移されて、其の拓本は三百円で希望者に頒つ仕組みに

なっている。私は当初そんなことも知らずに徒勞に搜索をしたのであった。氏の歌集はかの和辻哲郎氏の名著「古寺巡礼」と共に奈良芸術への啓蒙的役割を果たした。人のよく知る処、一卷の歌集又偉なる哉と云いたい。

古寺巡礼の影響も大きい。此の書出で以來、奈良の古美術鑑賞に一つの型が作られたようにさえ感ずる。それは空想連想を縦横に駆使して、衍大誇張の讃辭を綴る主情主義である。私はそうした行方が実感を遊離し、美の標準を却って曖昧ならしめることを恐れる。昔洋画家津田青楓氏が、某美術雜誌に、法隆寺の壁面の価値に疑を持つと、大胆に告白した記事を今に忘れない。私自身は青楓氏と所感を異にするが、こうした良心的言説は尊重したい。

大分余談にわたったが、私は新薬師寺から春日の森に入って行った。前に見落した若宮を詣りて本社に到り、樓門内の名花「砂摺りの藤」と、もう一枚宝庫と七種の寄生木とを入れた図とを写生す

る。場所柄修学旅行の生徒達が引きなりに来て聊か辟易する。彼等の様子を見てみると、中には先生や案内人の説明を殆ど聞かず、見るべき物も見ず、ただ漫然と遊びに来たように見える者も少くない。私は今度九州と大和と、随分修学旅行の実体を目撃して、多少批評の種を得たようである。兎に角日本程修学旅行の盛んな国は世界何処にも類が無いであろう。

帰途、飛火野に廻って斜陽の中の鹿を写生する。因に飛火野とは奈良時代に通報用の烽火を上げた地黒の由、烽火を飛火と云う大和言葉は面白い。

五月九日 雨

傘をさして、観光客の行かない奈良の南都の古い町を歩いて見る。それには昔興福寺と肩を並べた大刹、元興寺の跡を見る目標もあったからである。やっと探し当てた廢址は、今は町中の狭い庭に過ぎず、僅かに塔の礎石のみが土壇の上に並んでいる。訪う人とてもなく、繁った

草に春雨蕭々たる情景は淡い哀情を咬らずには措かない。次に極楽院の金堂に行ったが修理中でよく見られなかった。猿沢池に出て、雨に煙る興福寺の五重塔を描きたかったが、雨を避ける場所が無いので断念する。

興福寺の五重塔は近年登攀を許すので私も登る。下から仰ぐとそうでもないが、登って見ると太い木材で堅固に組上げた塔は、建築中最も強固な耐久力を持つように思われる。千年以上前にこうした技術のあったことは驚異に値する。私は最上層の階廊に坐して、煙雨の眺望を二枚写生する。北側だったので寒い風に慄えたが、緊張した故か幸に風邪にも冒されなかった。夕方になったので下る途中、米国の夫人連三人が賑やかに登って来るのに会う。上に居た守衛は又明日も来てはと云ってくれるのに、下の管理人からは半日も居るとは非常識である、拝観者の邪魔をしたと大に油をしばられて苦笑した。

五月十日 快晴

素晴らしい快晴に心も浮きたって、近鉄で西の京に下車する。薬師寺は駅からすぐである。約四十年の昔、高等学校の生徒の時に一友に案内されて古美術觀賞の開眼をした私にとっては記念すべき寺である。その頃は那山まで汽車で来るより仕方がなかった。また古美術趣味の普及しない時であったから、境内は我々の外に人影とてもなく、閑寂を極めて居た。友人が当時の新刊書、黒田鷗心氏の日本美術史講話を持参し、現場でそれと首引きに勉強したのである。其の本は簡潔で穩健で、好適の啓蒙書であった。最近又新版が出たようであるが、今以て寿命を保つのは嬉しい。

私は其の後二度程来たように思う。仏像は詳知しているので格子の隙間から覗いただけで東側の部落に行つて、農家の間に三重塔を見る図を写生する。終つて更にもう一度境内に戻つて塔を真正面から写生する。金堂は近年塗り換えた様子だが、その朱色の単俗な色調は私には不

快である。

次に北数町に在る唐招提寺へ行く。此処も四十年前の思出の地である。初めは薬師寺の方が深い興味を与えてくれたが爾後の歴訪は反対に此の寺の森嚴な男性的な雰囲気をおぼやうになった。法隆寺に次いで襟を正さしめる名刹だと思ふ。今日は先ず拝観してから鼓樓を写生したが、晩春の斜陽は美しい色調を現じていた。

五月十一日 快晴

朝食前に木津川街道を北行して見る。

東大寺転害門は初めて見るが珍しく豪放な門である。癪者を収容したと云う北山十八間長屋は、社寺の多い奈良の名勝の中に在つて、珍とする社会施設の遺物である。近年修理成つて余りに整備され、又柵を作つて内部を見られぬようになつてある。坂を登ると般若寺があるが、有名な十三重の六石塔と、荒廢した樓門の外見るべきものはなく、此の名刹の末路の衰れさは心を傷めしめずには措かない。

食後バスで法隆寺に向う。途中予定を変更して小泉口で下車して法起寺から見ることにする。聖徳太子の別荘岡本宮の旧蹟に建てられた寺で、今は素朴な、然し堅固な三重塔が樹林の上に聳えている。蛙鳴く畦道を辿つて寺域に入り、更に裏の岡本の部落の丘から写生した。雲一黒無い快晴の空の下、遠く霞む葛城山脈を背景にした眺めは、五月の大和路の旅情にふさわしいものであった。

法隆寺まで半里程の道を歩む。斑鳩の里に入ると、大和棟の典型的な農家の集落に豊かな面趣を感じる。然し時間の關係で之を割愛し、法隆寺を拝観する。

法隆寺は流石に堂々たる天下第一の名刹である。多くの脇寺を擁した宏壯な規模、均勢のよくとれた堂塔の建築、量質兼備した貫祿は十分である。五重塔は最近修理終つて多年の工事困いを解いたが、今は金堂が代つてその中に鑿の音が籠めている。修学旅行団のいくつかが、弁当を開き、土産物を求め、又拝観しているが、幼稚園の遠足が来ているのには

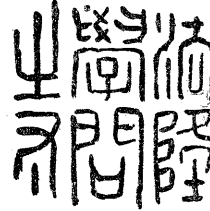
鶴寺倉印



鶴寺金堂



法隆寺閻摩



法隆寺印



驚いた。まるで彼岸会のような賑いである。中門内は撮影も写生も許可なくしては禁ぜられているのは諒解出来る。止むなく廻廊の外、向って左方の樹林中から比較的塔の見える地点を見つけて写生する。

(法隆寺の印の中、鶴は「いかるが」と読む)

(筆者画)

宝庫を拝観して久振りに金堂の本尊、薬師如来や名物の玉蟲厨子の前に立つ。夫等は昔受けた印象よりも遙かに立派に感ぜられた。夢殿を拝観した時は已に閉門直前であって、斜陽が流れていたが、昔見た程ロマンチックな気分がなく、何となく乾燥した空気を感ずる。写生も出来ず、簡単なスケッチに止めたのはいささか残念であった。中宮寺も訪ねたかったが、黄昏が迫った為め止めて、国道に出てバスに乗る。

奈良に近づいた頃、大日輪が生駒山に沈む壮観を見る。大和平野は燦爛たる光彩を一杯に湛えている。遠い昔、平城京の人々も同じ光景を見たことであろう。其の壮嚴の中に仏教の神秘を思ひはしなかったか、天平芸術のモチーフはこう云う処にもありはしなかったか、などと楽しい想像に耽った。

五月十二日 快晴

バスで多武峰を志す。桜井で乗り換えて谷に入って山下に到る。登り数丁、一汗掻いて談山神社を拝する。想像していたより小規模な社殿である。然し鮮かな新緑と、之に浮かぶ燃えるような朱色の廻廊は絶好な画題である。社人の説明によると、日光の東照宮芸術は、三代将軍が此処に参詣してヒントを得たので、関西の日光の称もあるそうである。拝観してから新緑と廻廊の図を写生する。

有名な名物十三重塔は錦の大座布団を積み重ねたような豪華なもので、写生したいと苦心したが梢に遮られて足場を得られないのに怨を呑む。

名残惜しくも下山し、再び桜井まで戻り、近鉄で室生口に着く。バスで室生川の谿谷を行くと、山藤は丁度見頃である。「くたびれて宿借る頃や藤の花」此の句は芭蕉が大和路での作なることを思うと、一層感銘の深きを覚える。室生に着くとすでに暮色が催していたが、名物の五重塔を写生する。小さいが美しいこ

とで有名な塔である。

寺の前は溪流で、朱塗りの橋が美しい。その袂の副業的の小さい橋本という田舎宿に泊る。然し夕食の膳は、鰻、数々の山菜、高野豆腐等で実に結構であった。夜は又涼々たる水声、月光に麗な山と寺、一黒の灯影、詩のような一夜を樂しむことが出来た。

五月十三日 晴

早起して宿の障子を明けて、朝日に映えた若葉に埋まる室生寺を写生する。朝食後拝観を求め、金堂、灌頂堂、五重塔、と説明を聞く。建築の彩色も適度に剥落してそれが新緑に映じて実に美しい。女人高野と云われる丈けあって、他の寺と違った繊細と華麗とがある。私は半日をゆっくりスケッチに暮した。

午後は長谷寺に詣でる。三十年前に一木宮相に随行して県庁の自動車で来て寺坊で饗応されたことがあった。今や一介の老書生となって、リュックサックを背にしてトボトボと来ると、全く別地に来

た思いがする。旅の醍醐味は心傲らざる心境に宿るようである。

長谷寺は寺坊多く仲々繁栄している。有名な廻廊は電光形に緩傾斜を画き、両側には名物の牡丹が多い。然し時すでに遅く、僅少の残花もあるが花は平凡である。長い廻廊が尽きると豪壮な本堂が、広い谷を前に舞台を掲げている。前山は老樹多い潤葉樹林、折からの午後の光を受けて新緑燃える如く強烈である。躊躇なく舞台と新緑とを写生する。

帰途、乗り換を利用して、草臥れた足を励まして、西大寺を見る。昔の名刹も荒廢して、東大寺の隆昌に比すると同情あるのみである。

五月十四日 雨

午前は休養して訪客に会い、午後は雨の中を正倉院に行く。旧友和田所長に挨拶し、所員中山氏の案内で、鉄筋コンクリートの新倉庫を見る。近代建築学の權威を集めて最近完成した金庫のような大倉庫である。今は湿度、温度の試験時代

で、数年間のレコードを検した上、御物の移動を断行する由、流石に慎重な方針である。過去半年間の試験成績は良好とのことであるが、内部の檜材に節の多いのを見て、私は御料材ありしならばと一抹の口惜しさを覚えた。然し此の倉庫は恐らく世界第一完璧なものであろう。

辞して佐保路の法蓮町の民家を見る。奈良特有の太い格子造りの家屋は、市中にも散見するが、此の一劃のみは軒を並べて、直線の美を現出した街景を作っている。

夜は雨宮君に招かれて、松尾君夫妻と共に、水炊きを御馳走になった。

五月十五日 晴

朝食前に東大寺の南大門の仁王をスケッチする。仁王像は全国到る処に見るが、仲々佳作に会わない。此の仁王は二丈六尺の巨像で、量感も十分、デッサンも快適、作者運慶湛慶の偉大さを裏書する本邦第一の傑作である。

落合学長に迎えられて女子大に同行さ

れる。家政学部長波多腰女史にも会い、近年完成した家政学部の新校舎を見る。

午には奈良ホテルに案内されて、二十年振りで此処の洋食を御馳走になった。

掃路落合氏の案内で白毫寺に行ったが、草は荒れ堂は寂れ、頽廢の状見るに忍びない。然し附近の白毫寺部落は奈良のフランスと云う人もあるとかで、黄土の壁の家が適度に撒かれて、牧歌的の田園に接している。

新薬師を再訪して、先日見落とした鬼瓦をスケッチする。かつて仙台で、土地の瓦の名工が大和を巡り、此処の鬼瓦に隨喜の涙を流したという話を思出したからである。

十輪院を見る。修理中で、上屋で覆われて詳見出来なかったが、本尊である巨大な石甍の中の地藏菩薩を珍しいと思つた。

学長と分れてから、電車で西の京へ行って見る。薬師寺の東の街道から、奈良の街、高円、三笠の連山の暮色を写生した。

五月十六日 曇

朝食前に猿沢池で興福寺の塔を写生する。朝六時と云うに、前夜泊った修学旅行の生徒が沢山来ている。七時頃には隊伍を整えたり、記念撮影をする者の動きも始まる。一刻を惜む気持はよく判る。

食後、落合学長の私邸に答礼し、近くの尼寺興福院を見る。建築はさして古くはないが清掃行届いた静閑さは氣持よい。一体に尼寺は、中宮寺、法華寺に見る如く、管理がいいようである。

此の近くに住む、お茶の水大学の先輩、越智老女史を訪ねる。少時話してから其案内で、在原業平の宅趾と云う不退寺を見る。

女史と分れて独り海竜王子に行く。相当の建物と、相当の仏像とを持ち乍ら、長く専任任職を欠いたとかで荒廢は甚しい。作務をしていた現任職からいろいろ説明を聞く。寺の將來について、彼に計画と希望のあるのは頼母しい。然し荒廢は多くの場合画趣となる如く、スケッチ

の材料は甚だ多かった。隣りの法華寺は修理中でもあり、時間も乏しかったので素通りする。本尊十一面観音は私の最も好きな観音であるが、比較的よく記憶しているのが割愛したのである。

此のあたり所謂法華寺の部落は白毫寺や法隆寺の部落と共に大和農村らしい情趣に富んでいる。其処を過ぎると、平城宮趾にかかる。南面の緩傾斜地、南に葛城、西に生駒、東に三笠の山々を見て、宮殿にふさわしい景勝の地である。大正末年に梶の上田技師の案内で、一木宮相に隨行したことを想出して、今は古人となった両氏のことがかくしく回想された。

此の辺は御陵も多く、里人に道を尋ねても「成務さんの御陵の脇を」等と、親しみの言葉を使うのも興味しい。その成務帝陵を拜して丘を下ると秋篠の里は眼前に見える。然し競馬場と競輪場と隣合つて出来ていて、風流な秋篠の里に異変を起した恰好である。

秋篠に着いた時には五時に近かったら

う。幸に開扉中だったので拝観を乞う。私は宿願がなつてかつて書齋に写真掲げていた程好きな伎芸天の前に立ったのである。薄暗い室内であり、像も意外に黒味を帯びているので、面貌も容易に明識出来ない。やがて幾分よく見えるようになったと思つたら、他の扉まで開かれたのである。「何時までも御ゆっくり」と退出を促さない好意を感謝しつつ、私は十分に拝観し得て、夕暮の路を西大寺に出て帰った。

五月十七日 曇

思い切つて当麻を志す。近鉄で櫃原神宮駅に到り、阿倍野線に乗換えて、当麻駅に下りる。前面に二上山つづきの柔かい山脈が横たわつて、麓に塔が二基それと認められ、道は真直に寺に向つて伸びている。やや行くと道の右側に大きな五輪の石塔のあるのは、土地の人当麻(けま)速(はや)の供養碑である。寺に近づくと古風の建築の家も混じってくる。交通やや不便の為めか、平時はあまり混むことなく、大

和風物の情緒が比較的豊かに残っている。

境内は、堂塔賑やかに、殊に今日二塔を完全にとどめる唯一の寺として貴重な寺である。中央正面の曼陀羅堂は中将姫伝説の所謂蓮糸曼陀羅を本尊とし、鎌倉期の建物であるが、割に古色がある。内陣を拝観したが、大厨子には模写の大曼陀羅が掛けられてある。面白いのは、弘法大師がいろは四十八文字を創作した室とが、中将姫が曼陀羅を織った室とがあることである。姫二十九才の像なるものがあるが、その美貌は生気があり、仲々魅力があった。

境内をスケッチし、最後に塔頭「中之坊」の上に東塔の聳える景を写生する。中之坊は数ある塔頭中の筆頭格のもので、書院、茶室、庭園が重要文化財になっている。私も拝観したが、石州流の庭園は小さいが美しいものであった。五時辞して帰路につき、途中奈良に近い尼ヶ辻の駅に下車して喜光寺遠望の暮景を写生した。

五月十八日 晴

朝、よい靄であったから、猿沢の池に行つて、先日の作品を修正する。

午前は最後にと取つて置いた大仏殿を写生すべく、場所を物色した結果、鐘楼から廻廊の方へ下る石段の途中に定める。両側の新緑の間から見る大仏殿の側面の木組が特に面白いと思つた。

終つて大仏を拝観すべく門に入る。正面から見る大仏殿の堂々たる偉容は全く雄大である。木造建築としては恐らく世界最大ではなからうか、然し創建当時のものは間口に於て約五割大きかつたと云うから、其の著想の雄渾さには驚かざるを得ない。私は今迄は、之を粗大の凡建築と思つていたが、今度全く認識を改めた。東大寺の大仏、大仏殿、仁王、鐘楼、転書門等と考えると、天平精神の気宇は日本人離れをした雄大なものであつたかに想像される。

午後、大阪の伯父の家に行つて一泊した。

五月十九日 曇

午過ぎに大阪から帰って、最後にもう一度、春日神社から普通のコースを一巡し、補足的にスケッチする。万葉植物園も始めて見たが、高級過ぎるためか、入場者は稀のようである。奈良公園は半被姿の天理教の人達が数百人清掃奉仕をしていた。

かくて其の夜、私は名残惜しくも奈良を去った。駅には世話になつた松尾君夫妻、令嬢、雨倉君夫妻、女子大の松沢君等が見送ってくれた。

願れば約二週間、日光のある間は、昼飯の時間も惜しむ位に、大和の風物を前にして過した。吉野路、飛鳥路等は逸したが、何れも曾遊の地であるから、ほぼ私の大和の情は今度で集大成されたように思う。私は松尾君等の好意を感謝しつつ、遠ざかり行く奈良に別れを惜しんだのであった。

(元お茶の水女子大学長)

× × ×
× × ×
× × ×

36頁より続く いろいろかえを作ること

は、このように簡単なのでありますが、それだけにいい作品を作るということ、製作する心がかえが、重大だと、考えるのであります。これは良心の問題であります。透視紙芝居を新しく考案した者として、今の峻しい時代の波に流されつつある子供達のために、真剣に考えてやらなければならぬ義務だとも思つて居ります。

私は商業主義をいちがい悪いとは思いませんが、童画家として、又世の中の多くの親の一人として、せめて自分で考案したるかげえ透視紙芝居だけは、企業化することなくして、子供達のために美しい夢を与えるものとして守り続けたと思います。それには数多くの作品を自分達の手で作るといふことが必要であります。

そのために私は同志を集めて、かみきりむしの会を結成したのです。

これは微力な一粒の種にしか過ぎませ

んが、これを機縁として子供達のためにという善意の人達が手をつなぎ合う母胎ともなれば、私はこの上もない喜びだと思ひます。

こども達のために、力を合せて夢を作る大きな組織にまで発展したらと、考えただけでも嬉しいことあります。

又そのような人達の集りの中からこそ、表現の技術の巧拙を乗り越えて、大人と子供の区別なく本当に心うつ童画としての、透視紙芝居が生れてくると私は信じて居ります。

一人でも多くの方が、こどもたちのためにかみきりむしの仲間に加つて下さることを願つて居ります。

やがて私達の仲間が、一人前のかみきりむしとして成長し、日本中をこびまわり子供たちのよき友となる日の来るのを待つて居ります。

(童画家)

日本の印象

日本に再び来
て感じたこと
あれやこれや

日本の印象

ロバート・H・ブラウワー

私は、日本の印象として、大げさな
題目で書く資格・能力なとます
もって全然持ちあわせておりません。
とかく経験なを浅いのに、何か結論め
たことを書くに、偏見に落ち



ドクトル・ロバート・H・ブラウワー

私は「日本の印象」という大げさな題目で書く資格、能力などまずもって全然持ちあわせておりません。とかく経験など浅いのに、何か結論めいたことを書くと、偏見に落ち入ります。結局私自身が日本の実状を少しも理解しておらないことが暴露してしまうのではないかと大いに心配です。だが、八年ぶりで御国にやってきた外国人が今日の日本を、どのように見ているかを、あけすけに言うのをお聞き下さるのも一興かとおこがましくも筆をとった次第です。もっとも、東京に来てからまだ七週間のほやほやで、電車ではるばる横浜まで旅をした以外、東京の外に出たことがないので、**「日本の印象」といっても「東京の印象」にほかならぬことをお断りして置きます。**

先ず日本の生活様式を外面的にしろ、アメリカやヨーロッパのそれと比較してみることは、私にとって極めて興味あることです。外国にゆきその国の風習、国情を理解するには、このように比較してみるのが一番手とり早い方法です。

東京に来て第一の印象は何処へ行っても人が多いことです。日本に来たのは二度目ですから別に驚くわけはないのですが、やはり驚かざるをえませんでした。とにかく、八年前よりもよほど人が多くなつたように感じられます。

そこで西ヨーロッパで人口が最も稠密なオランダ、南イタ

リアのナポリを思い出しますが、ほんとうはこの点ではアメリカはもちろんヨーロッパともくらべることはできないわけです。実際どこに行っても、最初の印象通り人がたくさんいます。

アメリカで私はもちろん都会に住んでいます。この町は大して大きくはありませんが、人口はかなり稠密です。それでも、二、三軒も郊外に出れば見渡す限りの大平原で、家などほんのわずか点在しているに過ぎません。御承知の通り、ニューヨークのような大都市でも、そう離れていない所にも居らない静かな場所がかなりあるのです。都内にすら、ちょっと孤独感を満喫できるような淋しい所があります。こんなアメリカに住んでいた私は、現代の日本の象徴である東京では、どこに行っても人がたくさん居るので、ビックリしてしまうのです。植物園に行っても、六義園、新宿御苑に出かけても、その自然、人工の美しさより、あまりに人が多いので、それに気を奪われてしまいます。皮相的外面的な印象ですが、感じたことを卒直に書いたのです。けっして悪口をいっているわけではないと御了承下さい。

これについて、私が深く印象づけられたことは、私が居なかった八年間のうちに、日本がかくも全く面目を一新してしまつたことです。勿論、復興していることは予期してきまし

たが、現状のような大変化をしたとは夢にも思いませんでした。私の目にふれた範囲では少なくとも、あの戦争の大災害から復興し、いちじるしく繁榮しているのので、全く驚かざるを得ません。商店にさえ行けば、この世にあるほどのあらゆる物品をなんでも買うことができます。銀座、日本橋のデパートまで行かないでも、その辺のちっほけな店で何でも入手できます。八年前、衣料、食糧等生活必需品は申すに及ばず、煙草、石鹼、キャンデーすらなかったことを思い出すとほんとに夢のようです。今度こちらに来るときも、日本では売っていないような物品がいくつかはあると思っていました。イギリスの場合はそうなのです。耐乏生活で輸出増進、国民経済再建のため国内消費物が輸出に振り向けられ、一般市民には買えない品物がたくさんあります。ところが東京では、ヨーロッパ、日本の小型自動車はもちろん、大き過ぎて使にくいと思われるアメリカ製の豪華な車まで、あらゆる型の自動車が町をとことろ狭しと走っています。日が暮れてから銀座ラに出かけるとネオンの光がまばゆく目がくらみます。ネオンの光が実に夜の東京の繁華街を夢の国、おとぎ話の国にしてしまっています。これはおそらくニューヨークも顔負けの豪華版です。私がビックリするのも無理ないでしょう。

道行く人を眺めても、一般的に言つて服装がとくに身だし

本音がよいという印象を受けます。通る人たちは美しく品がよい服を着こなしています。もちろん、貧富の差はありますが、概括的にいってアメリカ人とくらべると日本人の方がよほど「ちゃんとして」います。東京の町を歩いているアメリカ人の多くは、例えスポーツ・シャツ、アロハ・シャツなど着ないで、ワイシャツにネクタイをつけ上着をきていても、そばを通る日本人のシブ好みの服装とくらべると、はで過ぎて悪趣味に見えます。

来たはじめ、ちょっとの間神田、美土代町のYMCAに泊ってました。御承知の通り有名な書店街の近くです。すでに、この有名な街のことは聞き及んでいましたが、こうまで書店がたくさんあるとは思いませんでした。私の居るミネアポリス市など、本屋は大学の近所に六、七軒、全市に点在しているのを引っくりまどめて十二、三軒しかありません。私をはじめて小川町から神保町へと散歩し、何百軒とある本屋を見たときの私の驚きを読者は御想像下さい。もちろん、これ等の本屋さんにはアメリカのにくらべると規模が小さいですが、其の数はアメリカ人の目から見ればまさに天文学的数字です。

両国のあいだに、何故こんなにちがいがいいのか、私にはわかりませんが、とにかく日本の方がアメリカ人より本を多

く読むと断言できるかと思えます。この点、最近日本ではテレビが普及しつつありますが、アメリカ人の多くがやるように、くだらぬテレビのプログラムに夢中になり、貴重な時間を浪費し読書を放擲するようなことがないよう願います。こうなれば神田の本屋さんはあがりです。

さて、日本の芸能には私は特に興味を持っていますので、一寸これに言及します。まず、歌舞伎を例にとります。東京に来るとすぐ見に行きました。その内容はさておいて、舞台、衣裳の美しさ、役者の演技のすばらしさ、まったく世界に冠たるもの、まさに天下の絶品です。だから、ことばのわからないアメリカ人にとっても魅力があり、多くのものがちよいちよい出かけるのです。能楽もこれと同様です。外国人がたくさん見物に行きますが、多くはそれを理解しているわけではなく、衣裳や演技にひかれています。(もっとも、日本人の中にも演技中ずつと熟睡して居られ、演技が終ったら「ああすてきだった」と言っただ方を見受けました。)冗談はさておきこんな優れた芸術が日本人によって熱心にそだてられていることはまことよきことばしいことです。

これに反し大ビルディング、豪華な商店などからは、東京に来た外国人は余り強い印象は受けません。戦争直後の状況と比較した場合は別ですが、このようなものは彼等にとっ

て珍しくはないからです。欧米文化の日本版といった種類のものについても同様です。ところが、日本固有のもの、優れた演劇、美しい建物、ものさびた庭園、日本の創造力の歴史的結晶物には深く印象づけられます。ここに日本文化の偉大さがあると私は思います。現今の社会に生きて居られる読者の皆様は、これを現実ばなれた、古くさい、馬鹿な頑固な考え方と思われるでしょう。でも、私は長い歴史を通じ日本の天才たちが作りあげたものの方が、現代の欧米文化日本版より遙かに優れているという考を棄てるわけにはいきません。

この世の中で最も複雑な対人関係につき一言いたします。これは実際むずかしいもので、他人の心情を理解することなど、風俗の同じな同国人の間ですらなかなかの難事です。まして、日本人の心理、風俗、習慣は特別なのですから、一寸研究したぐらいいは戸惑いするような場面におつかるときが多いのです。「郷に入つては郷にしたがえ」外国人は日本に來る以上は日本の風習を充分習得する義務があります。だが、前述の通り、習俗や心理に非常なちがひがあるので、アメリカ人は一朝一夕ではこれを習得することができません。東京の生活もアメリカの生活も両方とも競争がはげしく、活潑で、あわただしく、表面的には似ていると考えられます。

しかし、私自身の目で見ただけでは、日本の生活の方がアメリカの生活より實際はテンポがおそいと思います。ちょっと、一般通念と矛盾した言い方ですが、例を上げると、日本では毎日人と交際するのに、かなり時間がとられるようです。というのはエチケットが複雑で、一寸電話で用がたせる場合でも、わざわざその家を訪問しなければならぬ場合があります。かどばった礼式になれていないアメリカ人はこれを時間の浪費だと考えてしまうのです。あのきれいに掃いた茶室の庭に落葉を二、三枚落し風情をそえるような、日本人の客をもてなすあつい心づかいはアメリカ人の大部分にはとうてい解りません。「少しも迷惑などではございません」と丁寧に言われると、その言葉通りにとつてしまつて、自分が迷惑をかけていることに気がつかないのです。日本に來てみて、日本の方々がアメリカ人に極めて親切であるのに深く感銘してきますので、弁解かたがたお詫び申上げる次第です。

由来日本の方々は未知の人に対しては、すこぶる丁重で遠慮深いのでアメリカ人ははじめは取つきにくく淋しい感じがします。この点、アメリカ人はちょっと行き会つた人にも声をかけ、全々知らない人と言葉かわすのも珍しいことではありません。つまり浅くつきあうのになれてます。だが、このような浅い交友関係は多くはじぎまた消えてしまします。

そこへゆくと、日本人は簡単には友人を作りませんが、一度作ったら死ぬまで交友関係を続けようとし、このため努力や、時間をおしひましません。このことをアメリカ人が日本で学ぶのはまことに有意義なことです。

次に日本人の人々と日々接触して個人的反米感情がないのを知って非常に驚きました。水爆実験で日本全土に恐怖感を引起したのですから、日本の新聞、雑誌が反米記事を載せるのは当然なことでしょう。個人的に嫌みを言われても、皆さんが白い眼で視られても、文句を言えた義理ではないと思いません。しかし、私の接したかぎり、日本人はたとえ理論的には反米主義者であっても、これを個人的な問題にまでしてアメリカ人個人につらくあたるといふようなことはありませぬ。実に立派な態度です。

最後にこれは児童教育の雑誌ですから家庭のことについて少し述べます。先ず、私は日本に於ける婦人の地位につきちよこちよこ批判を求められます。たしかに婦人の地位の高いアメリカでは、日本の夫は利己的で、暴君で妻を度外視するけしからぬ人たちだとの評判があります。ちよこちよこ表面的に見るとその通りですが、かならずしもそうだとはいへませぬ。両国の習慣の相異からこんな見方が生ずるのです。いつも婦人同伴で、社交の席では婦人の方がしゃべるのを普通だ

と考えているアメリカ人が妻をつれず料理屋に行く夫や、社交の席であまり発言しない妻をみると、日本では婦人が社交の楽しみを奪われており、しいたげられているという印象をもつのです。例えば、日本では友人が飯時に来たら御馳走するよい機会です。大抵のアメリカ人にはこんなことは思いもありません。というのは、友人だけを饗応したら、彼を待ちわびている奥さんに申しわけないと考えるからです。こんな習慣の違いはありますが、日本の家庭を観察してみると、日本の男子もまあ思った程の暴君ではないことがわかります。大抵の男の人は妻や家庭の事をなかなか考えています。もっともその愛情の表現方法はアメリカ人にはちよこちよこ珍しいのですが。

子供のことはアメリカのことすら私は良くは知りません。概していえば、日本の子供たちはなかなか自由が与えられていると思います。アメリカでは親は日本程子供のために精力や時間をつかいません。アメリカでは親はなかなか厳格で、私なども子供とき悪いことをしたときはどしどしおしりを打たれましたが、これはアメリカでは今日もなお珍しいことではありません。もっとも、日本でもそうするかどうかは私は知りません。私の目で見ると、日本では子供を甘やかすぞろぞろと思われぬ節もありますが、反面両親が非常に子供を可

愛がり、深い愛情を注いでいることには感銘いたします。育てる方法のちがいがいこそあれ、日本の子供が善良な信頼すべき人になることは信じて疑いません。

以上一貫していることは、日本の人は皆ほんとに親切なあなたかい心の持ち主だということです。

外国人の書いた下手な駄文をおよみ下さって有難うございました。

終りにのぞみこの記事を誌上にのせる、光栄と名誉をお与え下さった、お茶の水女子大学の津守先生と出版社の方々に厚く御礼申し上げます。

——(言葉使い原文のまま)——

筆者略歴

ドクトル・ロバート・H・ブラウワー

一九二三年ボストンに生れ、一九四四年ハーバード大学卒業(仏文学を専攻)ミシガン大学にて軍の日語学校に入り、ニューギニヤ、フィリッピンを経、第八軍クルーガー大将の通訳として京都に七ヶ月をおくる。一九五一年ミネソタ大学の日本語講師となる。一九五二年ミシガン大学にて学位を得、其の間二度、イギリス、イタリヤ、マランス、ドイツ、オランダ等に遊ぶ。

51頁より続く

フレイベル主義幼稚園を語り、会う人毎に幼稚園の他は何も話さなかった。人々は最初はただ笑って扱っていたが、会話が終る時には、金を寄附するか、労力を奉仕するか、或いはその両方を与えることを約束していた。今や老ビーボディ女史は、どこに出かけるにも寝巻の上から洋服を着て、その両方のポケットは洗面道具でふくれ上っていた。どこに出るにもそれが彼女の旅行準備だった。ヴァン・ウィックは、ボストン名物のビーボディの姿を次のような詩の中にうたっている。

ボストンの冬の雪どけ道について

彼女は頭布ツバを斜なにのせて

白い髪は乱れ

雪と氷の中を人々に説いてまわる

彼女の姿は教育の旗幟だ

一九九四年の正月の或る日、エリザベスは外出先から帰ると急に疲れを覚えて床に横たわった。外には電車の通る音が聞えていた。恐らく、エリザベスの親しくしていた人達は、電車の音をきかずして、先立ったであろう。エリザベス・ビーボディは十九世紀のアメリカの文化を生き抜いた。そして、幼稚園運動は、彼女の生涯の最後の、そして最大の努力だったのである。



雲

と正太のこと

坪 田 讓 治

昔のことです。正太が六つか七つの頃、私と二人で、散歩してました。夏のこと、遠くの空に、雲の峰がムクムク聳え立ち、白銀色に光ってました。それを見ると、正太が言いました。

「お父さん、ボク、あんな雲を見ると、あそこに行ってみたくて思うよ。お父さん、そう思わない？」

これをきくと、私はちょっと考えました。美しい話で、それは私のいつも思うところなのです。だから、一も二もなく、

「お父さんも、そう思うよ。あんな雲を見ることに、いつでもお父さんはそう思ってるんだ。子供の時から三十年も四十年も、そう思って来たんだよ。」

そう言うのがいつわらない本心だったので、ところが考えました。考えたというのも、その頃、私は貧乏していたからで

す。その貧乏の故に、妻子を哀れに思っていたからです。だが、なぜ私は貧乏だったのでしょうか。私が文士だったからです。昔から、吾国に於ては、文士というものは、貧乏にきまっていたのです。そこで、その頃私のキモに銘じて考えていたことは「自分はもうこゝまで来たんだから、文学の道は捨てられない。然し子供たちは、決して決して、文士などさせてはならない。」

目頃、そう考えていたのですから、正太が雲の峰を美しがり、そこへ行つて見たいという感想を語っても、私は考えざるを得なかったのです。

「さて、さて、ここで正太の空想に同意したりすると、正太の奴、ますます空想をたくましくして、遂には文学の道に深入りするようになるかもしれない。これはシンチョウに答え

なくては——。」

とつさに、私はそんなことを考えたようです。で、言ったのです。

「そうだな。お父さんは、あんなところ、行きたくないね。」

ところが、次に言うことがないのです。正太は正太で、

「フーン。」

と言ったきり、話を切ってしまいました。

さて、それから三十年ほどたちました。正太は三十六七になつてゐるようです。ところが、今になって、その時のことが私にはしきりに思い出されてくるのでした。それも大変後悔されて、思い出されてくるのです。然しなぜ後悔なんかするのでしよう。正太は、私が文士なんかにならせたくなないと考えた通り、自分でも、文士なんかにはならないよと言つて、遂に文士にはなりませんでした。社会事業というのでしようか。児童保護という方に仕事の道を選びました。仕事としては立派な仕事で、文学と比べて、まさり、劣りはありません。それならば、何を私は後悔したりするのでしよう。

「雲の如く高く、くもの如く輝き、雲の如く囚われず。」

これは小川未明先生がこの間画仙紙に大きく書かれた言葉であります。笑のところで、私はこの雲が大好きなのです。空の星をたたえる人は、昔から無数にあります。然し雲の美しさを歌ったり書いたりした人は少ないのではないでしようか。これは美しい雲の出ることが少ないのにもよるでしよう。ところが

で、美しい雲とは、どんな雲でしよう。夕焼雲なども、そう言えるでしようけれども、私は夏の日中、遠い空際や近い空際に立つ、この雲の峰にしくものなしと思うのであります。それは全く白銀の宮殿のようであります。アラビヤナイトや、その他異国の童話の中などにその宮殿は立っていたような気がします。いや、なかったかも知れませんが、私はいつもそんな空想をするのであります。物語の中、それも遠いむかしの童話の中でもなければ、そんな宮殿なんか、あろう筈がありませんが、そういう宮殿が目あたりに見られるのは、この雲の峰ばかりです。言わば、それは童話が雲に姿を変えて、そこに、空の上高々と、白銀の輝きも美しく出現したようなものであります。それを私は、不覚にも、子供の前で否定したのであります。それに、その時、子供は心の窓を開き、常々そういうことに理解ある父の心を期待して話しかけて来た時、私は冷い返事をしたのであります。後悔せざらんとしても、得ずというところであります。然しその時から三十年の年月がたつていて、どうしていいか解りません。もう三十六かになる息子に、そういう話をしたところで、笑われるばかりであります。然し一方から言えば、この三十年もの永い年月がたつてに、私の後悔も深いのであります。彼が三十年、雲の峰の美しさ、ひいては童話の美しさ、そしてそういう夢とか、空想とかいうものを否定して生きて来たのではないか。それを思うと、何ともすまない気持がするのであります。

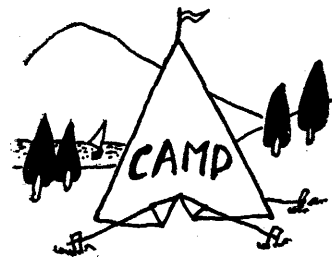
キャンプ場にて

デフレだ、不況がくる等と、さわがれているかと思うと、一方では、夏の声をきくか、きかぬ中に、交通公社のキャンプの申し込みは、満員になっている。

エチケット、エチケットと、あれ程、云われているのに、エチケットを守っていは、汽車にも、電車にも乗れない。

「女性よ、たくましくあれ」と、五尺四寸に物を云わせて、とびこんだ車中の座席は、既に、筋骨たくましく男性が、九十八%を占めている。

「リーダー・ファスト、恐妻家等と、終戦



後は女性に圧迫され続けで」と、なげいて男性のせめてものはらいせなのであるうか。

静かな、湖のほとりを想像していたが山中湖畔のメインストリートはバスの砂ぼこりが、二間先をさえぎる。都会の黄塵をはらいおとし、素朴な人間にかえることを目的に、山の中のキャンプ場にくるのだろうと思っただら……。

「おや、之が、日本人かいな」と、改めて目をこすって、見直し度い様な女性が、マリリン・モンロウばりに、カッ歩

秋山ちえ子

する。

一つ、一つとりたててみると、何と矛盾だらけの世の中だろうと、啞然とせざるを得ない。

商魂たくましい業者達は、海拔九百八十二米と云う富士山麓山中湖のほとりに、十五のキャンプ場を経営し、夏の四十日の間に、一年分のかせぎをしなくてはと、懸命である。

場末の町に見られる様な食堂がある。売店が並んでいる。貸ボート、貸ヨットは、まだいいとして、躰雀、ダンスホー

ル、パチンコやに至っては、こちらがはずかしい。

それに、キャンプと云えば、テントを張って、山の中から、枯枝を集め、飯盒で、御飯をたいて、ふだん、都会で出来ない原始的な生活の妙味を、たのしむのだろうと思っていると、大間違いで、厚い布地のテントは、ほんの数える程で、パンガローとよぶ、犬小屋を大きくした様なものが、松林のあちこちに、チョココンとおいてあったり、急場しのぎに、板をぶっつけたと云った感じの小屋が多く、いかにもお粗末である。

枯枝を集めなくても、貸石油コンロがあるし、谷川の水をくみにいかなくても、栓をねじれば、水は、都会と同じ様に、「ジャー」と出てくる。

炊事は、勝手にされると危いからと云うので炊事場がつけられていて。之では、アパートの炊事場と変りがない。

この様に、到れり、つくせりのキャンプ場が多い様である。

私は、一年に一度のキャンプ生活では自然にさからわぬ生活をしてほしいと思っている。火打石で、火をつける位に考えてほしい。

炊事のあとの火の仕末をきちんとしないと、山火事の様な大事になることを、各自がよく知って、小さいながら責任ある生活をするからこそ、自然を理解し、自然に、愛着を抱く第一歩ではないかと思うのに、お若い方々は、余りにも、不自由がきらいの様である。

夕暮のキャンプ場は、さすがに、人の心も、しっとりとした落つきが漂ってくる。

派手やかなものより、落葉松のすくとのびた姿や、野鳥の声、あざみの花等が、大きく浮びあがってくる。

パンガローにも、ポツポツと、住人の影がふえてくる様である。

多種多様の顔ぶれである。

男三人、女二人づれの、パンガローを

のぞくと、せまい、むっとする部屋の中に、皆が、ごろりとねそべっていた。

部屋の片隅には、カラになった一升瓶やら、ウイスキーの瓶、それに、缶詰のあきかんがころがっている。

ゆであずきのたべさしの缶に、さじが、つっこみばなしになっていて、いかにも自堕落な感じである。

「どちらからきましたか」と、声をかけたら、一斉に皆が、かま首をもちあげる様にして、私を見た。

「沼津ですよ」

男の中の一人が答えたが、云い終らぬ中に、黄色のワンピースの女が、クルリとおきあがって、今、口を聞いた男を、指先で強くつついた。

そして、私の方に背をむけて、膝をくんでいた。

「何も云うまいぞ」と云った、ふてぶてしい態度であった。

洗い場にいた高校の一年と云う三人の女の生徒に、「お母さんの許可を得てき

ましたか」と聞いたたら「ええ」と云った。

その「ええ」は、余りすっきりした「ええ」ではなかった。そして、そばにいた若い男に、何かかまわれると、ハツとする様な、女臭い媚態をみせるのだ。

キャンプにきていると、一種特別の、解放感や、近親感が湧いてくるものだが、それも健全なものなら、ほほえましいが、彼女等には大丈夫だろうか、案じられるものがある。

陰性の感じのグループの話が先に出てしまつたが、数から云うと、明朗な、元気のいい、グループの方が多い様である。

茨城県の高校三年の四人の男の子は、夏のキャンプにきたくて、鶏を三十羽飼つて、卵の売りあげをためたり、兄弟七人からカンパをしてくたりと資金調達に苦勞した話をしていた。

そして、無器用な手つきで、カレーライスをつくつてたのしそつた。

東京の女子大生六人は、高校時代からの友達で、家でもころよく許してくれたと云つていた。

彼女等は、私をそつちのけにして、計算をはじめた。

「××さんは、お菓子を買二十円分買つたのね。缶詰の人は誰？ ○○ちゃん
は、佃煮、百五円」等と、誰も損をしな
い様に、平等の支出にしなければと、ガ
ツチリしたところを見せていた。

或グループでは、男性側が、女性側に
圧倒されて、薪あつめ、御飯たき、おか
ずづくり一切をさせられることになつた
と、うれしそうに悲鳴をあげていた。
夕食のひとさわががすみ、夜がくる。

夜のキャンプ場は、キャンプ・ファイ
アーをかこんで、昼とは全く趣を異にし
た生活がくりひろげられる。

歌を歌っている人々が一番多かつた
が、私は、次々に歌っているグループを
廻つてみたあとで、たまらないさびしさ
を感じた。

つい先頃、ソ聯に長く生活して帰つて
こられた人から聞いた話を思い出したの
である。

ソ聯の田舎で、水を汲みにきた女の
人達が、思わず口ずさむ歌声が、立派な二
部合唱になっていて、その人は、仕事を
忘れて、きまほれたと云つていた。

それからまた、雪の降る日、仕事をし
ていたら、むこうの町角から、レコード
で聞いていたと同じ様なドンコザックの
合唱がきこえてきたと云うのだ。窓をあ
けて、体をのり出してみると、軍隊の行
進であつた。バリトン、テノール、バス
と、調和された歌声が、夜のとばりにつ
つまれた町にひびき、何とも云えぬ雰
気をつくり出していた。その人は、夢中
になつて二階からかけおりて、軍隊の一
番あとから、そのコーラスにひかれて、
夜の雪道を歩きつづけたと云う話であ
る。

外国人の声は、体格とか、食事等の関
係で、ヴォリウムがあり、美しい。

日本人の声は、昔から、わびとか、さびを尊ぶ国だけあって、何となく、四畳半的であり、一人でひそかにたのしむのをよしとする習慣がある。

それに、日本は、特定の人以外は、音楽を尊重しない国である。特に、男が、歌を歌ったり、音楽を好む等と云うと、男らしくないと軽蔑された国であった。

キャンプ・ファイアーをかこんだ中学生の一群は、はじめは、それでも「卯の花の匂う垣根に……」等と歌っていたが、二つ、三つで、歌は途絶えてしまう。

そうすると、豪傑連中が、
「炭坑節」
「酋長の娘」
「やっとな節」
「芸者ワルツ」等と、思いもかけぬものまで、とび出してくる仕末であった。しかも、テレかくしもあるせいか、パン声をはりあげて、がなるのである。

先生は、手をこまねいて、見ていないだけで、どうにもならない。

私は絵を描くことも出来たり、歌を歌うことが出来る人生は、この上なくたの

しいものだと思ふのであるが、キャンプにきている中学生を見てみると、之は全く夢物語の様に思えてくるのである。

幼い頃から、子供達にもっと正しい発声法を教え、大人になっても、美しいコーラスが出来る様に、特に男の子の上に、指導があつてほしいと願わずには居られなかつた。

もう批判はやめようと、私は、人気のない林の奥に入つて行つた。

静かな高原の気配が、足もとからにじりよる様であつた。

月夜だったので、から松の姿が、一きわ、すつきりと見えた。

落葉松の林を過ぎて

落葉松をしみじみと見き

落葉松はさびしかりけり

たびゆくはさびしかりけり

久しぶりに、白秋の詩を、心から口ず

さんでみたくなつた。

落葉松はさびしかりけり

旅ゆくはさびしかりけり……と。

大人の私まで、この様に心を素直にさせてくれる大自然のよき、キャンプ生活の楽しさを、日本中の若い人々に、一度は経験させてやりたいものだ、しみじみ思つた。それには、条件がある。

日本中の若い人々等と云い出すと、何と云つても日本の国民の、貧しさからの解放であるが、それはひとまず政治家にまかせて、身近なことから考えてみたい。

まず、親も子も、納得いく様な方法や、話しあいが必要ではない。

次に、しっかりとした指導者がついていくことと、良心的な管理者のいるキャンプ場をえらばなければいけないと云うことである。

或母親は、こう云つた。

「私は、娘が、キャンプにお友達だけはいくと云うことを聞いた時反対でした。ところが、一寸それを云うと、娘は」お

父さんも、お母さんも、私をそんなに信用出来ないのかしら。○○さんの家では、すぐ、いいと云ったのに、うちでは一言でだめ。

若い者の自由を認めない、封建的な家庭なんだわ」と、泣かれたり、理屈を云われるやらで、とうとうまけてしまいました」と。

母親は、〃古い〃とか、封建的だと云われるのを、極度におそれている様な傾向がある。

「うちのお母さんは、物のわかりがいい」と、ほめられたい様である。

ところが、それが、応々にして、自由も、自由、野放図の自由になってしまい、後悔先にたたずと云った結果を生むこともある。

私は、母親は、人生の経験者として、未経験者の子供に、注意を与えるのは、当然の義務であると思っている。

誰だか知らない人と、娘がキャンプに行くとき、「行っていらっしやい」

と云う様な母親は、母親としての資格がないと思っている。

「責任者や、指導者の方、それと、一緒に出かけるお友達に、一応おあいしてから、きめましょうね」と云える位、母親は凜としていなければいけないと思う。

母も子も、充分に理解が出来「さあ、

気持よく行ってらっしやい」と、送り出された子供達は、心から、キャンプ生活のたのしさを味わい、大自然に抱かれて、一生思い出として残る生活をしていくことが出来るのではなからうか。

(NHK婦人の時間担当)

ねれねれよ——おころりよ

坊やはよい子だ ねんねしな

坊やがねた間にべゝたって

お眠が醒めたら官参り

お宮の鳩には豆遣って

お池の金魚にや麩を遣って

坊やはよい子だ ねんねしな

——神奈川県児童童子守唄より——

実践記録から

—盲人のこと—

松村康平

もう三年ほど前になるが、私は盲人会館で、社会科の授業を担当したことがある。東京・新宿区の戸山ヶ原にあるヘレン・ケラー財団の仕事の一端を引受けただけで、受待つたのは、高等学校一年にあたる組だった。私は、それまでにほとんど盲人にふれたことがなかった。だから、こちらが善意で一生涯

命に話しても、意図の通じぬおそれがある。そればかりか、間違つて悪意にとられる危険も感じられた。それで、最初の時間に、「どんなことがいやか」「どんなことにこまるか」卒直に意見をきかせてほしい、と、申しでた。

その時、一人の青年が立つて、「めくら」といわれるのが「いやだ」と答えた。この青年は、大学在学中に応召して失明し、今は、はり・きゅう師の免許状をとるために、勉強しているのである。

「めくら」といわれるのは、ちょうど、あなたたちが、めあきといわれて気持が悪いのと同じなのだ」という。そして、「盲人」と呼んでほしい。眼あきのことを、私たちは「せいがん者」という。そう呼ぶのがふさわしいと思うと、つけ加えた。「せいがん」とは「晴眼」のこ

とである。もし、そのときに、なにも「めあき」といわれたつて、いやな気持などしないと、答えていたら、恐らく私は、彼らから遠い存在になつてしまつたことだらう。

この提案には、いろいろの解釈をくだすことができる。これは、盲人が正常者に対して抱く劣等感のあらわれと、とれないこともない。けれど、「批判」や「解釈」をくだすまえに、私たちは、その世界に身をおき、その世界での出来ごとを、あたりまえだと感じる必要があるだらう。

「富士山はどういうところか」という質問に、緑日のようににぎやかなところと、こたえたものがいた。「滝」について思い浮ぶ色は、私たちだと、多くの場合「白」だが、盲人では、滝の音が漠然としてとらえにくいところから、「黒」に近

い感で抱かれることがあるらしい。講義の中で、「あそこ」とか「そこ」とか「ここ」とかいう言葉は、なるべく使わないでほしいという要求もでた。

職業興味調査をしたときのことである。「好き」「嫌い」のどちらかの極に答が集中して、「中間」や「あいまいな答」が少かつた。盲人の世界では、事ごとに自分ではつきりと決定をだしながら進まねばならぬ機会が、多いからではないかと思う。どことなく「硬い」感じを与えたり、「がんこだ」と思われがちなのも、こうしたところから由来するのではないだらうか。

むずかしい適性検査を通過して大学に在学する二十人ほどの学生と、しばしば談合したが、盲人の生きる道を、新しく開拓しようとしている人たちであるだけ、すじがねが通つて、しつ

かりしている。しかし、私たちがポケットにいられて持ち運べる英和辞典を、点字で印刷すると、床から天井にとどくほどの冊数になり、手軽に利用することができない。教科書も参考書も点字されているものは極めて少ないため、「きいて学ぶ」方法によつて補わねばならない。

それには、「読んできかせてくれる人」が必要になる。幸い、私の身近かに、女子短大生で、リーディング・サービスを進んで引受ける人たちがいて、要求の一端をみたすことができただが、いろいろと、自分の力だけでは処理できにくい問題に、取りかこまれている。手助けをしてくれる人が、いつもいるわけではないから、単語一つきく場合にも、真剣な態度でのぞまざるをえない。忘れたらまた辞書をみればよいといった気楽さが、ないのである。

盲人に接してから、私は二つのことを考えた。一つは、リーディング・サービスのグループをつくることである。もう一つは、機械の改良である。

点訳の仕事は、篤志家によつて続けられ、盲人図書館の充實がはかられているが、この仕事には、多くの時間と労力がかかり、その割に成果があがらない。点訳をするには、先ず、六つの点からなる点字をおぼえ、その裏がえし文字を紙におしていく。これが、もし、タイプライターに組まれ、打つほう(キイ)は、私たちの使いなれている「字」にし、打ち出されるのを「点字」にすれば、今よりももつと能率的で、思いついた人がすぐ誰でも点訳の仕事は取りかかれることになる。こうした機械の改良から、盲人の世界をより明るくしたいと考えて、意見をのべ、業者に働きかけてい

るが、まだ実現の運びになつていない。

リーディング・サービス・グループのほうは、それまでにあつたグループとも連絡をとり、現に活動している。活動を開始

してから三年、彼女たちは、このグループを「だるま会」と呼んでいる。
盲幼児に接する機会がきたら、新しい玩具を考案しようと思つている。

増子とし 編著

親子のたのしいホームゲームと

やさしいフォークダンス

面白い団らんのホームゲーム、軽やかなフォークダンス、一度覚えればひとりでに口ずさむリクリエーションの歌は幼児達を純真健全に成長させる一つの指針を与えるものであります。

B5判 一四〇頁 定価四〇〇円 千四〇〇円
賀来琢磨 先生 著

実用保育動きのリズム (第二集)

保育遊戯としての動きのリズムの実際について種々の幼児向音楽に振付をした書。

B5判 各二三〇円 千各一六円

株式会社 フレーベル館

ばけものの世界

万寺十郎

真夏の夜の夢ものがたりにはばけものの話を一席お話したいとかがえております。

だいたい、ばけものが横行するにはやはりそれに適した環境というものがあるようです。怪談とかおばけ話のもてはやされた時代を顧みますと、その時代は世をあげて腐敗の極をきわめており、その臭気がよどみ停滞した時代が最たるものようでありませう。

今夜、わたくしがおばけばなしに思い

つきますのも此の暑さがさせる業かも知れません。精神的にも肉体的にもだらけきつた真夏の夜の物語にはばけものの話は最も似つかわしく冷たい井戸水一杯の役割をも果たすことだとも思いますし、科学文明の世界で怪しいばけものの姿をしかと見とどける機会を得たわたくしの責務でもあるかのようにも思えるからでもあります。

ばけものにもいろいろ種類がありまして、鬼・魔・悪神・狐・狸・猫などが化

けて出まして、それぞれが思い思いの化け方で怪しい姿をしては、わたくしの如きものを化かすわけでありますが、後のたたりを恐れ、呪文を唱えさせて頂きたいと思ひます。

無上甚深微妙の法は
百千万劫にも遭過ること難し
我今見聞し受待することを得たり
願はくば如来の第一義を解せん

有難い法華經というお経が読みあげられてゆくわけですが、わたくしはこの文章を今古の大文章であると考えております。高さが四十里もある四角い大石を、しなやかな天女がどこからともなく舞いおりて来て、軟い天女の衣で山よりも大きい大石をひとなでする。それも三年目にただの一度だけ、三年目三年目のひとながくりかえされて、さしもの大石がすりへり盡きて無くなる日を一劫と考えているのですから、百千万劫となると、こ

れはまたべらぼうに長い時でありまして、想像することも不可能のようであります。その長い時間を待つていても縁が無ければあいあうこと難しと云うのですから大変です。

おしやか様でないわたくしは甚深微妙の宇宙の真理とはまるで逆のばけものの話をしようとしているのでありますが、この話を聞いて頂けるとゆうことも誠に不思議なご縁だと思えます。文字があつてそれを読むといふことは如何にも自然のようであつて、あたりまえのようでもあります。が考えてみれば百万劫にあいあつたわけでありますから有難い偶然といふものでありましようか。

このばけものの話は最初から真夏の夜の夢物語のつもりで話しているわけでありますし、一杯の井戸水のつもりで話しているわけでもありませんから渴きをおぼえていない方はこの辺で席をたたれ、一眠りされて結構ですし、聞いてやるうといふ殊勝な方は最後まで頑張つて聞いて下

さつてもそれもまた結構なことだと思つてお祈ります。

さて、わたくしの見ましたばけもののお話を致します。

徳島本線という汽車の通るところから六里も山奥の、人煙も疎らな溪流に沿つた村での出来ごとであります。今から二十年ほど以前のこと、丁度その夜も梅雨のような小雨が降つたりあがつたりしていた真夏のことでありました。知人の家で時を過し、一里余の道を徒歩で帰ることになりました。小雨はよいぐあいにやんでおりました。深い溪流に沿つた道を提灯の明を便りにいそいでいたのであります。提灯の明りには小さい燈明ろうそくを何本かもらつて来ていたので、燃えつきないまえに新しいろうそくに継ぎたさねばなりませんでした。その時は運悪くマツチを待つていませんでしたので、明りを消してしまえば雨あがりの溪流沿いの夜道は危険で一步もあるけなくなるのです。夜はもう丑三つ時という頃合で

した。何本目かの新しいろうそくに火をうつつそうとしていた時です。ろうが明りの上に落ちて、よわい火は冷たいろうに消されてしまいました。忽ちの暗闇に戸惑つた心の動揺をおさえようとつとめていました。滝の音がしていました。この場所はこんもりと昼も暗い繁みで、溪流は深い淵になつていてるところであります。ここは不吉なところだとかで小さい滝の傍に石地藏が祀られているはずで、最も厭な場所に来ているのを知つて尙更心は不安に乱れ、立ちどまつたまま、知人の家へひきかえすか、それとも歩きつづけるか思案しておりました。と、地上に提灯の影が影絵になつて浮び出してくるので、雨あがりの夜には月も星もあるわけではなく手にした消えた提灯の影がうつているのにははつと思つたとたんしんと冷たいものを感じました。わたしは目をそらしました。と、闇の眼前に、巨大な人がたが闇よりも濃い影絵になつてつ立つているのです。悪寒が背筋をはしり、全

身が粟立つのをおぼました。

田舎の老爺達の話では、狸とか狐とかのばけものに出合つた時の心得を説いて、そんな時には胡坐をかいてすわり、腰の蓑を一服か二服すうと良いとのこと、逃げ出せば、思わぬ怪我をするか悪くすると命を失う結果をまねくのだからです。

わたくしは巨大な人がたをじつとみつめていました。目をそらしてはならないと思ひました。恐怖に堪えて、いや、のがれられないと諦めてじつと動かないでいました。巨大な人がたは忽ちうすれ、消えて、またもとの闇にかえりました。

いまお話ししましたばけものは形から言いますと大入道というやつで、山笠に属するものだと考えられます。

妖怪変化というものは狐だとか狸だとかにかぎられたわけでは無いのでありまして、また軒先が三寸下る丑三つ時に出るものとも定められたわけのものでありません。人間の姿をしたばけものが人間

の世界、それも白昼、その上に公衆の面前に姿をあらわす場合も多多ありうるようであります。死んだ者が成仏しきれないで、この世に現われ、怨みごとをのべる幽霊という純朴な種類のものではありません。やんやの拍手に突に美事な演技をみせる場合もありうるのです。

では、第二話は白昼のばけものについてお話をすすめていきたいと存じます。

この種のばけものは人間の集るところには必ず一匹や二匹はいるもののようにあります、また化け方にも巧拙があり、巧いものほど世俗からのものではやされる率も多いようであります。民衆の万雷の拍手に應えて、ありつたけの演技をつくし、時には自分がばけものであることもわずれ、余りにも上手に人間らしくふるまつたため人間でもあるかのような錯覚におちいり、或は、第一義的な生きかたをしているかのような幻覚におちいる場合さえも生じて来ることになります。これはばけものの世界では喜劇と呼

んでおりますが、しかしこれは同時にばかされ、たぶらかされた善良な人間世界の悲劇を構成する要因ともなるのであります。

動物園で見かけられます狐とか狸だとかの動物が上手に人間をたぶらかし化けて見せることから推しはかつてみますに、もし人間が化けると仮定いたしますと、その化けかたの演出効果は狐や狸の比ではないことは論をまぢません。おぼけである人間はおぼけ競争の花形として登場し、新聞は花形役者であるおぼけの行状を細密に報道し、雑誌はこぞつてその雑文を掲載し、映画、写真と行く所すべて可ならざるは無という結果を生じ有名おぼけ人種が作りあげられるということになります。

これ等ばけものの特質を考察してみますに、第一に善良なる人間をばかすということが、一般庶民をたぶらかすということが考えられます。第二の特質はばけものがばけもの仲間では化けかたの演技を

競うということ、またそれを誇示するという点が考えられます。演技を競うということは一例をあげますと、四国に高名な狸がいて、慢心したその狸は海を渡り中国の狐と化けくらべをしてまんまと敗れたという民話があります。また化けかたを誇示する話では、調子にのつて小さく化け過ぎ口の中へ投げ入れられた大入道のお話。或は段々と背丈を高く伸ばし過ぎ、顔が雲の上まで出たとき脚もとを剃刀で切られてしまう大入道の民話などがあります。これらの話はまのぬけた滑稽味のあるお話ではありますが、ばけ方の技術も老練なものになつてまいりますとばけものであるか、ばけものでないかの見分け方は至つて困難を極めるもののようにあります。

宗教・政治・教育というふうには現代社会の各部門にわたつてばけものの正体を究明してまいりますと、現代の世相が如何にばけものの生棲に適しており、如何に民衆がばかされ、毒されているかに驚

ろかれると思ひます。

ゴオゴリの短編に「肖像画」という作品がありますが、悪魔に芸術の良心をうりわたした無名画家がその代償として流石作家となり第一級の画家となつて行く経過が物語られております。かくの如き画家は現画壇にも生棲しておりますし、善良な観衆をして面白くもない絵を面白くと言わせ、芸術でないものを芸術だと誤認させようと勉めているようであります。

ばけものの生棲にもつとも適した世相に於ては、ばけものの正体を見破ることが急務ではなからうかと思ひます。こんな世相にあつては、どつしり大地に腰をおろし、其の洋服か二服でも吸うに限ります。ばけものの特性から考えてみましてばけものの化け方に讚美の拍手を送つたり、恐怖或は驚異の眼をむけることは最も戒めなければならぬことだと思ひます。笛を吹いても一般大衆が踊らなければ、おいおいにばけものは正体を現わ

してくるものでありまして、正体をみればみな枯尾花の類で、拍手したことも驚いたことも馬鹿馬鹿しく感じられてくるものであります。

枯尾花を枯尾花と見きわめがつけば、宗教界に於ける真の宗教者、教育界に於ける真の教育者の姿が掴めることもなり、自分を含めた一般大衆の立つていた場所の危きに驚くこともなるのであります。時々肩につばをつけて、或は頬をつねつてみて、ばかされていけないことを確かめてみたいと思ひます。

ほんものが通用する世の中が来ますことを願つて今夜のばけもののお話を終りたいと思ひます。どうか肩につばをつけてみて下さい。わたくしの話にばかされているのかも知れませんか。(詩人)

× × ×

× × × ×

いろいろかげえ

透視紙芝居について

木俣 武

1

いろいろかげえ透視紙芝居とは、セロファンを使って作る色彩のある影絵を、逆光線にて透してながめる新しい試みの紙芝居であります。

透してながめることによって、普通の紙芝居とちがったセロファンの重り合による美しい色彩の効果と、影絵の醸し出す幻想的な雰囲気は、自づから作り出された童心の夢だと私は思っています。

直接多くの子供達に接する機会に恵れない私ではありますが、常日頃子供達のために童画を描く者として、スライドの作品目録に目をとおした時に、物足りなく感ずることは小学校の児童を対象として制作された作品に比較して、幼児を対象

とした作品の数の少ないことであります。

これは幼児に、幻燈が適さないという理由からでなく、窓を広くとる幼稚園の建物の関係から、紙芝居のように手軽に演出出来ない不便さに原因があるようにも思えます。

幻燈の代用品を作ろうとして、私は透視紙芝居を考案したではありませんが、いろいろかげえを観賞するには透してながめるのが、一番効果的であるという観賞上の立場からと、これを幼児にみせる場合、紙芝居の形式をとるのが最も適当な方法であるという、一致点から幻燈機を用いないで、幻燈の効果を出すいろいろかげえ透視紙芝居が生れたのであります。

窓ガラスの前で、或は戸外で太陽を背にすれば、美しい幻想的な影絵を、紙芝居のように手軽に演出出来ることは、透視紙芝居の持つ第一の特色だと思えます。

その外にいろいろかげえは、たやすく誰れ

にでも作ることが出来るといふ普遍的な特質をそなえて居りますので、いいかえれば大衆性のある新しい影絵の芸術だといえるでしょう。

多くの人達の間に、いろいろかげえを作る事が普及されると、幼稚園及び子供会等で紙芝居を利用する場合、必要に応じ自分の手で作品を作り、それを子ども達に与えることも絵を描くより手軽に出来るでしょう。

又私達の作品を与えるだけでなく一歩進んで作ることを指導すれば、子供達は私達の想像もしなかつたような、すぐれた作品を作ってくれることだろうと思えます。

紙芝居を児童が作るということは、単に一枚の絵を描くという枠を越えた、少くとも教科目の学習的な要素の綜合されたものであり、これをかげえで製作させることによって、セロファンに組合せよる新しい試みとしての色彩教育にまでも、発展させることが出来ると思えます。

す。

勿論幼児の場合いきなりこのことを、求めるのは無理なことではありますが、丸や三角等の形を切り抜いたセロファンを幼児に与えて、それも不規則に重り合うように並べる程度の作業は幼児にも可能なことであります。

セロファンを組合せたものを、透してながめた時に、セロファンの重り合によって無意識の間に構成された美しさは、色のあそびとして幼児に興味を持たせると共に、あそびの間に色彩感覚を豊かにさせる結果にもなると思つて居ります。色彩教育の一環として私は一つの試案を持つて居りますが、これを理論的に尙深く追究して体系づけることが出来た時、レクリエーション的の面からのみ評価され勝の透視紙芝居の価値を、一層高く意義付けることになると思つて居ります。

2

透してながめるといふ特質を、他の方

法で説明することは、結局抽象的なことを繰り返すことに過ぎませんので、透視紙芝居の作り方を説明して、若しそれに依つて試作して下さることが出来たら、それこそ下手な百の説法に勝ることと思つて居ります。

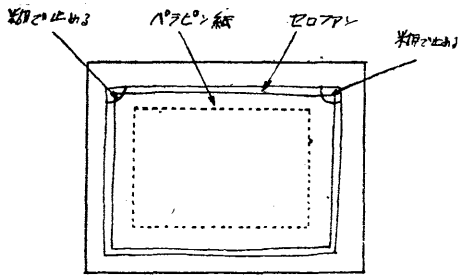
キャンデーを包んだセロファンがございましたら、それを水につけて窓ガラスに貼りつけて下さい。

セロファンが乾いてしわが延びましたら、それをはがして三角形、丸等の形を切りガラス板の上に不規則にセロファンが、重り合さるようにならばその上に別のガラス板を置き透してながめて見て下さい。

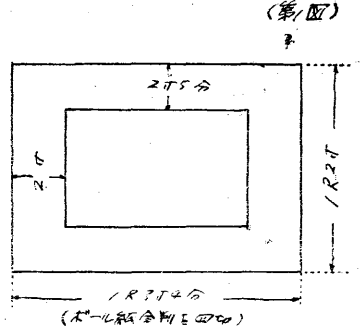
セロファンの重り合せに依つて、無意識の内に構成された抽象的な美しさの一つの驚きを感じられることだろうと思つて居ります。

私はこれを色の構成と称して居ります。

透視紙芝居とは、これに影絵を組合せ



(第2図)



(第3図)

て作ったものであります。

紙芝居を作るには、ボール紙の真中に四角の窓をあけた枠が一面面に対して二枚入用でございます。

私達は絵の大きさを統一させるために、第一図に示すような寸法の枠を使用して居ります。

ボール紙の枠が出来ましたら次に透明セロファンとパラフィン紙を切って、第二図のように一方の枠に糊又はセメダイン等で止めて下さい。

影絵用の台紙が出来ましたら、ラシヤ紙に影絵の下図を描き、はさみで切り抜きます。下図がはつきり判って切るのに都合がいいので、私達はねずみ色のラシヤ紙を使用して居りますが、そのために影絵が切り抜いたら墨汁に黒いポスターカラーを交えて影絵を塗りつぶしてあります。

墨汁だけで塗りつぶしてもよろしいのですが、透した場合塗ったむらが目立ちますので黒いポスター・カラーを交えて

使って居ります。

影絵が出来上ったら、第三図のように台紙の下に影絵を置き背景になる色のセロファンを切り抜きましょう。

セロファンが切れましたら、その一端若くは両端にすり落ちない程度の極少量の糊をつけて、パラフィン紙に貼りつけながら、いろいろかげえを構成します。

直接ボール紙、パラフィン紙に糊をつけ過ぎると、出来上った場合画面がよれたり台紙自体がひつりますから、糊付けは特に注意なさるようお願い申し上げます。

色セロファンの構成が終わったら、その上に影絵を糊で台紙に止め更に透明セロファンをその上に止め、別のボール紙の枠を重ね合せ、第五図のように上、下及び四方をホッチキスで止めると透視紙芝居が出来上ります。

窓ガラスを利用したり、戸外で太陽を背にしたりすればこのままで子供達に透視紙芝居をみせることが出来ます。

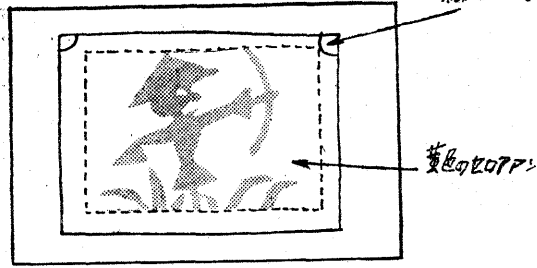
私達は素材ではありませんが、部分的に影絵を動したり、同時に二枚乃至三枚の画を重ねて画面の奏行を現したりして居ります。

又会場の関係や夜間等のことを考えて照明の装置をほどこした舞台を考案して使用して居ります。これらのことにつきましては、又別に

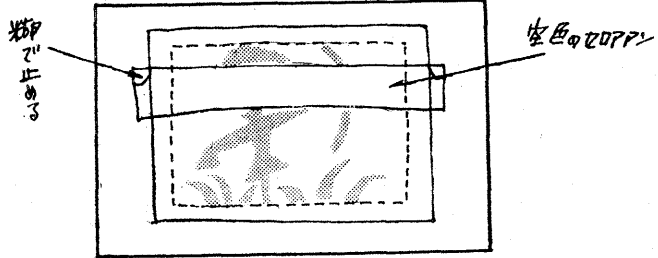
作り方の説明に合せていろいろか、大体お判りになったことと思ひます。

(13頁に続く)

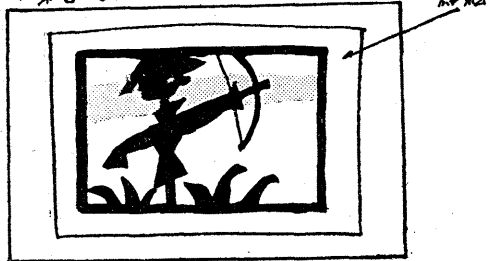
(第3図)



(第4図)



(第5図)

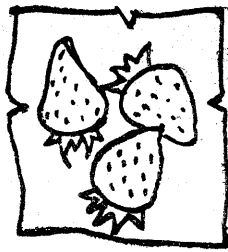


機会でもありましたら詳細に作り方をお知らせしたいと思つて居ります。

材料の費用は、私共は共同で購入して分け合つて居りますが個々にお求めになる場合相当高価につくかとも考えます。

それでも一画面の材料代は百円以下で揃えることが出来るだろうと思ひます。

これは色のセロファン八色全部を揃えたものとしての計算でございますので、十画面の場合は色のセロファンの費用が大部節約されることを、お含み下さい。



幼児の環境 と生活指導

菊池ふじの

孟子の言葉に「居は氣を移す」という言葉がございますが、これは居所はその人の気持ちをかえるという意味でありまして、これ程端的に環境の影響を喝破した言葉はないと思えます。

この他、「氏より育ち」という言葉もありますし、「朱に交れば赤くなる」という言葉もあります。それから孟母三遷の教といつて有名なお話がございます。孟子の母が、孟子を育てる時、家が墓場のそばにありました。孟子は遊ぶとき葬式の真似ばかりしますのです、これでは孟子の教育のためにいけないと思つて、こんどは市井の中に引越しました。すると孟子はこんどは商人の真似をして物を

売買することばかり致します。母は又これも孟子の教育にいけないというので、こんどは学校の近くにしました。すると孟子は、こんどは学校の真似をして、勉強をしたり、お行儀がよくなつたり、いいことばかりしましたので、それから永くそこに住むことにしたというお話。このお話は孟母三遷の教といわれるもので、皆様もお聞きになつたことと思ひます。孟子は今から凡そ二千年も前の人であります。この頃既に環境の影響の大きいことは認められていたわけでございます。

○環境の本質

では環境とは何でありましょうか？ 環境

の定義といひましようか、本質といひましようかそれは何でありましようか？ 私は次のように考えます。環境とは、ある個人をとりまいてゐるもので、しかもその個人と何等かのつながりを持つてゐるものその個人の生活と何かの交渉のあるもの、それが即ち環境だと思ひます。例えば、生れたての赤ちゃんは目も見えなければ耳もきこえてゐるかどうかわかりません。といつて、動かないでゐるものでなくて絶えず手足をうごかしてゐます。これはただ自分の持つて生れた生得的な内部活動があるのみでありまして、未だ環境の影響でうごいてゐるのではありません。それがやがて日が経つにつれて、耳は聞えてくる、目は見えてくる、人の氣配が感じられるようになってくると、もう既に環境が出来てきて、人やまわりに影響されてくるようになります。それから幼い子供の環境は、その幼児をとりまいてゐる、ごく近い周囲のものに限られておりますが、大人の環境は、人によつては、郷土中が環境であつたり、もっと活躍してゐる人は国が環境であつたり、又海を隔てて、世界を環境にしてゐる人もあるわけでありまう。湯川博士の如きは、正に世界を

環境にしている人の好例であると思います。
このように環境は、子供と大人とはその
広さに格段の開きがあり、ある個人について
みても、成長するにつれ経験の拡大するにつ
れて拡大してゆき、複雑さをも増していくも
のだと思います。

○環境にはどんなものがあります しょうか

次に私達をとりまいている環境にはどんな
ものがありますか。私達の生活に関係の
ある環境にはどんなものがありますか。
これについては、いろいろな立場から言え
ると思いますが。

普通一般的なわけ方として、自然的環境と
社会的環境とがあります。それから大きい意
味では社会的環境の中に含まれるもののだと思
いますが、私達の生活に非常に大きい影響を
与える家庭環境と学校環境、この四つが普通
に言われている分け方だと思います。ではこ
の四つの環境について考えてみましょう。

自然的環境 人は自然の気候や風土によっ
て影響されるものです。この自然環境が世界
の二つの文化の流れをつくったという興味深

いお話が和辻博士の著書（土と文化）に出て
おります。二つの文化とはラテン民族によつ
てつくられた文化とゲルマン民族によつてつ
くられた文化です。南方は気候が暖かく自然
の恵みが豊かですから自然を讚美している生
活ですし、北方は気候が寒く氷雪が多いの
で、絶えず自然と斗わなくてはなりません。

自然南方文化は明るく情熱的でありましょ
うし、北方は意志の強い、ごつい人間が出来
ることは自然のいきおいだと思います。この気
候風土の影響は住宅にも現われております。
南方は暑いので、水面の上にやぐらをつくつ
て生活するほうがらくでありますし、北の方
は寒いので地の中に穴を掘って生活をする。
この発生の型が今でも残っているといわれ
ております。西洋の住宅の様なれん瓦作り
は、穴を住宅とした原始家屋の発達してきた
型であり、日本のような、木造の床の高い住
宅は南方原始民族の住宅の発達してきた型で
あって、それ故に日本民族は南方民族に起源
を持つのだということをきいております。

私共日本人はまめで活動的であると言われ
ますが、これもこの自然的環境の然らしめる
ところであると思います。即ち日本には絶え
ず春夏秋冬の訪れがあつて、うっかりしては
いられないのです。暑いと思つていこうちに
秋がやってくる冬がおそつてくるという有様
で、のん気にしては居られません。障子を貼
りかえるとか冬物を用意するとか、始終努力
の生活をしなければならぬわけでございます。
す。

手近かな経験で申しますと、お天気によ
い、すがすがしい日には、子供たちは静かに
おちついてよく遊び、むし暑い風の強い日な
どには、子供たちは何となくざわつき、衝突
の多いことは、私共よく経験していること
でございます。この自然の影響は、自然が単
独で影響するというよりも、その社会的環境と
からみ合つて、影響を与えていることが多い
のでございます。

社会的環境 人々は自分の住んでいる社会
の、ものの考え方とか、習慣とか、或は価値
判断などに影響され順応していくものなので
ございます。大きくいえば東洋と西洋、近く
でいえば山の手と下町とで違つてきておりま
す。農村と都会、漁村と農村とでも風俗習慣
が異つているのはこの社会的環境の差が現れ
ているわけなのでございます。もっと狭めて

考えるならば、貧民窟に住む子供は悪い影響をうけるし、知識階級層の住む社会の子供は、それらしい影響をうけているのは、私共の日常見慣れている、誰もが納得できることがらなのでございます。

家庭環境 吾々に最も近い環境であります。人の人となりに最も大きい影響を持つと思われるのはこの家庭環境ではないでしょうか？

近頃社会問題を惹起している多くの犯罪の殆んどが、この家庭環境の貧困によるものであることは、日々の新聞紙の報ずるところによっても明らかであります。家庭環境の貧困とはどういうことでしょうか。そこには単純ですっきりして正しい豊かな親や家族の愛情の欠如、経済的な貧困、兄弟姉妹の過多。家庭の教養や趣味の低いことなどが指摘されております。

学校環境 私共教育に従事している者が絶えず努力して、少しでもよくしようとしていているのはこの学校環境であります。幼稚園の場合には幼稚園環境、保育環境であります。よい学校では生徒が自然によくならず、勉強するクラスにおれば、生徒が自然に

勉強するようになるのかは、私達のよく知っていることでありまして、学校環境の如何が、生徒に影響することの大きいことは今更言うまでもありません。問題は、施設の面に於て、又人的の面に於て如何にすればよりよい環境を作ることができると、学校に關係している人は日夜工夫をこらし、努力をしているわけなのでございます。幼稚園の環境におきましても、先生の問題、施設の問題、それから更に細かに幼児のいろいろな生活場面の環境を整えることが考えられなければなりません。私共が一番知りたいと願っているのは、幼児のいろいろな生活場面の理想的な環境はどのようなあらねばならないか？ 例えば絵画製作の生活を充分にさせるには設備としてどういうものを揃えなければならぬか、材料としてどういうものを用意すべきか、先生の配慮によって雰囲気をもどくようにすべきであるか、又個々の指導、場面面での指導は、どのようなのがよいのか、ということだと思えます。音楽リズムの生活、健康安全の生活に於ても皆問題は同じだと思えます。

先生は学校環境に於て最も大切な、影響す

ることの大きい人的環境であります。指導もその先生から流れてくるものであるとすれば、大きな意味で私達教師の関心事はすべて、大きな意味での環境構成にあるといえると思えます。

○環境が現代教育に於て大きくとりあげられるようになった考え方は

それは学校とか教育とかいうものに対しての考え方が変わってきたことによると思えます。現代は、学校を単に知識を授けるところだと単純に考える人はなくなりまして。この頃は学校はいろいろの経験をさせて学ばせるところである、幼稚園というところも、幼児にいろいろな豊富な経験をさせる、生活をさせる、というふうに見えるようになりました。ただ豊富でありさえすればよいのではなく、そこには先生による選択がなければなりません。選ばれた望ましい生活経験をできるだけ沢山、しかも広くさせるのです。「為すことよって学ぶ」という言葉がございますが、全く机上の空論だけでは真実に知ることができません。やってみなくてはほんとうに知ることではできないものでございます。殊

に、知情意のゆらぎが未分化で、身体も精神も渾然一体となっていて、抽象してものごとを考えると、時期に達していない幼児にあつては、なお更のこと、この考え方でいかなければなりません。

この、先生の配慮による豊富な環境、先生の選択による望ましい生活経験を潑刺として生活することは、幼児にとって誠に真実の生活であります。こうした環境で、充実した生活をするには、それ自身貴い生活でありまして、決して将来の為にさせる生活ではありません。小学校入学の準備の為に生活ではありません。併し、このような、幼児の年令相応の即ち成長発達に即した、充実した生活をするには、必ずや、将来の充実した生活を打ち立てるための土台になることは疑いの余地がありません。砂上の楼閣という言葉がありますが、幼年時代に、子供の成長発達に程度も考えず、子供の興味も要求も顧慮せず、何等の環境も整えない生活をさせておいて、ただ将来の準備のみを夢みるのこそ砂上の楼閣といわなければなりません。

このように、教育といふとなみについて考え方が、環境ということを大きく浮かび

上らせるようになったのだと思います。

○環境はどの程度影響するものであろうか

環境の影響は非常に大きい、こう申してまいりますと、この考えを極端に進めますと、人は環境に左右されてしまつて、その人自身ではどうするということはできないものだ、という考え方になり、この考え方も世間に相応あるようですけれど、これに讃成は出来ません。何故なら、人間には、意志の力もありますし、善悪の判断の力もある筈です。どんな大犯罪を犯した人でも、悪いことを全然知らないでやっていることはないので、その自分というものを見ると必ず悪いとは知っている、又悪いことをすることを何か理由をつけて、ジャステファイ、正当化してやっているのがあります。学校のクラスの問題にしても、よいクラスの生徒がよくなることは、たしかです。併し、またよい生徒が二、三人おればクラスがよくなることもたしかだと思ひます。人は環境から影響をうける、左右もされませんが又環境を左右することもできるものです。クラスが生徒をよくするというのもたしかで

すし、具体的には生徒がクラスをよくするのであるということも考えられるのであります。

このように環境は人間にとって非常に影響することが大であります。このことについては誰も異論はないと思ひます。ただ、どの程度影響されるだろうかという疑問が、誰でも知りたいと思う重要なことなのでございませう。

例えば、先生の指導の差異で、子供の知能や態度や実践にどのような違いが生ずるか、又幼稚園の施設や材料の違いでどんな差異が幼児の上に現われるか、という疑問は誰でも持っている問題だと思ひます。

今まで長い間、幼児の教育にたずさわつてきておりましたのに、これ等のことについて自分で実験をしたり研究をしたりして、この疑問に対していくらかでも解明を与えることをしなかつた自分の怠りに対して、今更慚愧に堪えないのであります。今迄も始終この問題について考えてまいりました。過去の、種々な 経験をふりかえつてもみましました。人の研究をも読んでみました。その中で興味を惹いたものにソ連のサルスキーという人の研究報告がありました。サルスキーが、ソ連の工

業都市の中心部にある幼稚園と、郊外にある幼稚園の二つについて子供達の遊びを研究したものです。都市の中心部の生活は、革命後の新しい生活様式をとっていて、家々には宗教はなく革命祝祭日があり、因襲的なものはありません。これにひきかえ、郊外の住宅地の生活は、宗教上の儀式とか習慣などは以前の生活様式をとっているのです。こういう二つの幼児のグループを比較したときに、郊外にある幼稚園には古い生活様式を模倣した遊びが四九%見られたが、中心部の幼稚園には、わずか六・三%に過ぎなかったと報告しております。

この結果は、大人が持っている生活習慣や方法や思考が、幼い子供の思考や行動に取り入れられていることを証明しているものですが、この結果だけで直ちに、この遊びに現われた生活様式が真に子供らの社会的関係に影響しているかと判断することはできません。生活様式は模倣によって相当程度大人の社会のものが取り入れられては居りますが、真の社会的関係に於ての協同とか同情とかにどの程度真実な意味で影響を与えているかということはもっとこういう生活場面を一層集中的に

長期間にわたって研究しなければ分らない、と研究者は結んでおります。

なお野間教育研究所の「家庭環境の教育に及ぼす影響」についての研究報告の中で、六つの中学についての研究結果では、一例を挙げれば、経済的条件のよい家庭、即ち収入が多く、居住条件にも恵まれ、学習部屋を与えられているというほうに成績のよい生徒が明らかに多いと報告しております。併し、私達の周囲には戦後のための居住条件が極めて悪く、一室に四、五人の家族が同居している状態です。よいか成績をあげている人を沢山みております。又同じ調査では、貧困な家庭の子弟は、有福な家庭の子弟に比べて明らかに成績が悪いという結果が出てをりますが、このことについても、そうでない多くの人を知っております。二宮尊徳、野口英世など歴史上の人物にも多くの例をあげられますが、又私達の周囲にもこの研究の反対を示す数多の事実があります。又同じ教室同じ先生の下で学校生活をしているのに生徒の能力や態度は皆同じではなく、生徒一人一人によってそれぞれ違います。それよりも、同じ両親、同じ家庭に育ってさえも、兄弟は一人として同じよ

うでないことは、私達の経験からうなずかれる事実なのですが、これはどういうわけでしょうか？「人によって違うからね」と簡単に言ってしまうておりますが、この言葉こそ実に重要な意味をもっていると思います。

この環境の影響程度は、知的素質の遺伝とか、その時の興味及び努力の程度、教育内容の性格、並に指導の適否、グループの性格、身体発育の状況などによって、決定的には言えないと思います。同じ人の場合であっても、その時の興味や精神の安定度などによって、行動や態度がいろいろ違っているのをございます。或る研究でも、この影響程度如何という問に対しての答は、はい、いいえという明瞭な答ではなくて、多分、恐らくという答である、と述べておりました。実に、この問題は、重要にして、誰もが知りたいと望んでいる問題なのに、答は以上のようにしか言えないのであります。では、幼児の生活指導の要諦はどこにありますか。

前にも述べましたように新しい教育の考え方は、教育は生活であります。生活は環境との交渉によってはじまるのであります。一方、幼児はまた実に模倣性や被暗示性に富ん

でおります。このことから、幼児の生活指導の要諦は自ずと導き出されてくると思いません。即ち、物的環境を出来るだけ豊かに整えることであります。そしてよい先生の巧みな指導によって、目標の方向への興味や必要感を潑刺と起させて或る生活への動機づけをすることに、尽きると思います。子供は、環境を一寸かえただけでも影響のあることは、私共が日々を経験していることでございます。ここへ、巧みな先生の指導があれば、いともたやすく教師の意図した生活へひき入れることができることも私達が常々経験していることでございます。

例えばあるものの製作の生活へ幼児をひきいれようとするときに、先ず先生は、子供より一步先んじて、おもしろうにその製作をしていることです。きっと子供がそばへきて「先生何をしているの?」ときくでしょう。「先生〇〇を作っているの」と答えますと、「僕も作りたい、私も作りたい」というふうに容易にその製作生活へはいつてまいります。材料を揃えておいただけでもそうした生活へはいることはしばしば経験していることでございます。

又歯を磨くしつけをしたいと思うときには言うまでもなく、流し場を掃えなければなりません。そして子供用の歯ブラシを揃える、歯みがきの弊を整えるというふうにしますと、新しいものに興味を持ち易い幼児は、喜んで歯をみがくという生活にはいつてまいります。これに先生の巧みな指導がはいったり、更に幻燈とか映画などで、虫歯の害を、それとなく子供にもわかるようにおもしろく編集してあるものを見せたり致しますと、苦勞少くそのしつけができることは、私共の経験ずみのことでございます。どのような、という具体的な環境をつくることと、どのように、という具体的な指導法が、私共實際家の、つねに求める、そして絶えず工夫をこらさなければならぬ問題なのでございます。生活指導の要諦は、豊かな環境構成と、よき指導があれば、そこにはおのずから、内からの潑刺たる興味と必要感がわきいでるものであると確信するものでございます。

お茶の水大附属幼稚園教諭

日本幼稚園協会主催

ゆうぎ講習会

日本幼稚園協会では七月二十一日より二十五日の間、講師に戸倉ハル先生を迎え、ゆうぎ講習会を開催した。

お茶の水女子大学主催

幼稚園教員免許法認定講習会

本年度、幼稚園教員免許法認定講習会は、六月下旬より七月下旬まで、お茶の水大附属幼稚園において開催され、科目は一般教育、教職科目、専門科目等であった。

お茶の水女子大学附属幼稚園

講習会係り



幼児の体育
的経験から

村田修子

今年も又新しい人を迎えた幼稚園の庭には、新しい人も、前からの馴れた人達もみんながいりまじって、楽しそうな笑い声がきこえ、遊びがくりひろげられています。

お子さんは何時のときでも変わらずにブランコをこぎ、逆さになってすべり台をすべりおり、ジャングルのてっぺんを飛行機などにして遊びたわむれています。

このなごやかな絵のような幼稚園独特の景色は、昔も今も余り変わったものではありませんが、私が何年か前に始めて幼稚園というものを知ったときと比べますと、幼稚園のこと全般について色々研究が進められてきたからということもありますが、そのよしあしはさ

ておいて大変に学問的・理論的になってきていることを感じます。

それで、この絵のような、いつにかわらないお子さんの動きの中から、私もそういう気持ちのもとにしたこと、感じていることをあげていきたいと思えます。

昨年は幼稚園にそなわっている遊具(運動具)について、その目標とか、体育的效果についてあげてみましたが、それらがどのよう利用されているか、ということについてみましょう。

☆遊具の利用

五月になってお子さんも幼稚園の環境に一

応なじんできましたので、それらをどのよう利用しているか、年令的にはどうか、ということを見るために次のように記録をとってみました。

こういうことをしますにも保育に当っております吾々は日常の保育をなげうって、というわけにはいきませんので、毎日ではなく、手のあるとき、朝の九時二十分から三十分間、午後十二時二十分から三十分間を五分ごととどういいう人が何をしているか、ということを書いていきました。こういう時間をえらんだのは、朝九時前後に登園してきたお子さんが自分の気持のままに十分活動していることの多い時間だからです。午後もそういう気持のもとに大体の人の食事がすんで、お帰りの体操が行われる間の時間をとりました。

これは使用する人の年令をみたかつたもので、記録の方法としては余り意味のないものだと思いますので、ここに数字として上げることは出来ませんが、次のようなことを感じたり再認識しました。

・三才児は人数が少い上、年令的にいって行動範囲が狭いために幼稚園にある体育的遊具のうちブランコを除いては余り使用し

ていない。そのため記録したときも気をつけて探そうにしなければならなかった。遊具の中でブランコは各年令層に、いつでも利用されている。ところが四才児の方が使用率が高い。それは、五才児になると遊びの範囲が広くなり、友達同志で遊びをみつめて、遊具ばかりによらないで遊ぶ。

• どの遊具でも養成科の生徒や学生、先生方がいるところには色々の年令の人が集っていく。あの小さなすべり台に十六人も参加していたこともあった。

低鉄棒・太鼓橋のような技術的な面をもった遊具はそれがとてもはつきりしている。自分一人ならばぶらさがるだけの低鉄棒も、先生に補助してもらえば逆上りも前まわりしておりすることも出来る、というので、大人がそこにいけば、幾らかでも興味をもって人はサツと集ってくる。

• 比較的動きの少いジャングル、低鉄棒は誰も利用していない時間が、他の遊具に比べると一番多い。

このようなことでした。

☆子供の遊びと環境・経験

お子さん達がこのように、いろいろの体育的遊具を使って遊んでいることを考えてみますと、少くとも小学校の中学年位になりますと、その体育的な活動は運動技術の獲得とか、上達するために、という目的もたれてきます。

ところが幼児期にあつては、その活動がはつきりとした目的をもたないのが普通です。そして、遊具の使用度をしらべたときにもあらわれてきたように、自分たちから進んで遊具を使って遊ぶとしない人たちでも、自分に親しみのある先生がその場所にいけば、ただ行っただけで、その遊具を使って遊ぶ人がワーツとふえる、ということや、遊べないでポカンとしている人たちの手をとって、鬼ごっこやブランコに誘導して行って、「先生も一緒にしている」というようすをする、というように動機を作ってやるだけで、大体はその遊びにとけ込むことが出来るものです。

幼児はこういうように環境に影響をうけることが非常に大きいことを感じます。

このように物的環境は勿論、人的な環境も考えられます。又それと同時に、環境がどんなに整っていても、それを用いる各人の素質

というものが、経験によって運動能力というものに差異ができることが考えられます。

☆幼稚園経験児と新入園の比較

そこで三年保育からの四才児と、この四月入つたばかりの四才児について調べてみました。年令が小さかったにしても、幼稚園生活を一年経験した四才児は、幼稚園の普通の生活でもゆとりをもっている、ということが感じられます。

次の観察は少し運動技術を主にしたような見方になりましたが、遊具についてのこなし具合(つまり運動能)でも大変差異があるように思われました。

観察対照……四才児の生れ月のおせい組のお子さん、三十八人

(三年保育……十八人 二年保育……二十人)

始めに三年保育の人の、遊具を使っての運動能の発達工合をみますと、

・太鼓橋

入園したときは出来なかつたが、大きい組の人のするのをみたり、一寸手をかしてもらったりして、五月頃一人で間からくぐっておたりする高度の技術が出来るように

なつた人 八人

秋頃出来た人 三人

冬頃出来た人 三人

出来なかつた人 四人

・ブランコ は五月頃大体の人が一人でのれるようになり、夏休み中に出来なかつた一人がのれるようになった。

・ジャングル は五月頃二、三段しかのれなかつた人 六人

九月頃上までのれるようになった人 五人

四才児の組になって登れるようになった人 一人

次にその組に新しく入ってきた二十人の人について四月中頃に記録したところでは、

・太鼓橋

前の十八人のうち、間からおりられない人が四人であったのに比べると

出来る人 三人

段の途中又は上までのぼれる人 十二人

全然しようとしなない人 三人

・ブランコ

のれない人はないようですが、ブランコの振れ工合と、自分の身体のバランスがとれないですぐにやめてしまつた人が一人あり

ました。

・ジャングル

大体は上までのぼれる

二、三段までのぼる人 三人

全然のぼらない人 三人

・すべり台については全部がうまくすべれませんでした。

・こうして比べてみますと、年齢による発達といふことと共に、それらを経験する時期の早いかおそいか、ということが大変に影響してくることもはっきりとわかりました。

けれどこのように出発点には差異が認められますが、心理学の色々の実験にもあらわれているように、そう遠くないうちに皆が同じようになると、ということは考えられますが、経験させることの大切なことが痛切に感じられます。

又ブランコとか、すべり台は世間一般にも普及して、日常ふれる機会が割に多いものなので、三年保育と二年保育の人の差異は余りありません。

こういうことから、経験による影響といふものがうらづけされると思います。

こうして運動能力といふものの記録をとって

てみますと、お子さんについて、どうしても素質と経験と環境というものによる影響があるように思います。

一般的素質というものは遺伝的なものとして認められますけれども、その人の健康状態、意志、環境条件がどうであるか、ということによって運動的な才能が現われるということはいえると思います。

ですから運動をしない人、運動方面に消極的な態度をとる人も、それはそういう才能がないのではなくて、別にやろうとしないから

だと思われれます。従ってこういう人も環境的に運動を余儀なくさせられたり、自覚して自分から運動をするようになれば、運動をする人、運動能力のすぐれた人になるかも知れない、とも考えられます。

こういうことから、これをひき出すような環境におく、ということ、つまり幼稚園では、皆が楽しく色々の運動に参加し色々の経験をしようになる、ということが体育の大切な目標の一つになると思います。

☆体力検定から

昨年秋、走・跳（立巾跳、片足連続跳）

3才

4才

5才

当幼稚園 研究会	25m疾走		男	女	男	女	男	女
	7.79秒 (9.07)	8.32秒 (10.87)	7.05秒 (7.79)	7.63秒 (8.27)	6.04秒 (6.59)	6.74秒 (7.20)		
当幼稚園 研究会	立 巾 跳		101.8cm (89.2)	92.1cm (84.2)	130.3cm (105.1)	108.2cm (97.9)		
当幼稚園 研究会	荷 重 疾 走		4.07秒 (4.52)	4.22秒 (4.74)	3.29秒 (3.85)	3.58秒 (4.16)		
当幼稚園 研究会	懸 垂		83秒 (60.06)	83秒 (67.76)	60.8秒 (80.6)	98.6秒 (73.6)		
当幼稚園 研究会	球 投		4.51m (3.35)	2.64m (1.95)	6.09m (4.83)	4.01m (3.39)	9.96m (7.21)	5.03m (4.40)

投・懸垂・荷重疾走等の体力の基本的なもの
の検定を行いました。(附属学校の研究課題)

その結果は次表の如くで、昭和十七年児童母
性研究会で出された基準よりは、記録的に少
しづつよくなっています。

この検定の個人の記録を
みますと、ここにも幾分あ
らわれてきていますが、私
がいつも痛切に感じている
ことは、幼稚園に入る前の
環境というものが、この時
代の運動能力に大変影響が
ある、ということです。

用心深い人(多くはおば
あさん)にそだてられた人
や、普段余り外に出ないで
家の中ばかりでそだった人
達の中に、特に脚力の弱い
お子さんをみうけます。大
切にされた余り、おんぶさ
れる事が多かった為の影響
です。

こういう人は膝が弱く従
ってバネがなく、大腿筋が
弱いので、歩くときも膝が
上らず脚がつっぱって

あしをひきずるようにして歩いたりスキップ
をしたりします。ころぶことも多いよう
です。私の組にもこれのはっきりした人がいま
す。そのうちの一人は、今迄一番すきだった
絵をかく事を余りしなくなり、目下太鼓橋に
興味が出たらしく、さかんに行っていますの
で、私は今後のかわり方に興味をもってみて
います。

一般に体育では目標の一つに性格の育成と
いうことをあげます。

具体的な事項としてあげてみますと、積極
性・忍耐・自制・協同・責任感・同情・フェ
アプレー等が最も重要なものとしてあげられ
ます。それは、体育というものが実践的な内
容を多分にもっているのです、そういうことが
比較的可能になる機会が多いので、必然的に
あらわれてくるのです。

未分化である幼児においては、こういうも
のをはっきりとした形で期待することは出来
ませんけれども、たとえば、太鼓橋で皆と同
じようにすることが出来るようになったこと
に自信をもったお子さんが、生活全般に活気
をもってきて、何でも皆と一緒に積極的になす

るようになったとか、普段の生活の中から幾分こういう気分があらわれてきていることを感じる事が出来ます。

おしまいに、最近私が経験している一つの例をあげて終りにしたいと思います。

三才のときから幼稚園生活を経験した七月生れの五才男児（発育は標準以上（身長一四・五cm、体重二一kg）入園したときは一人っ子、現在は妹、弟一人っ子）

科学的に性格検査とか社会性の検査をしたわけではありませんが、日常接して観察したところによりますと

一見したところでは勢力的でリーダー格にみえる。けれどそのわりに皆をまとめているというのではなく、一人っ子であったという環境から、集団の中に入っても自分一ぱいに振舞う、乱暴なことをしても自分の思うことを通す、という点が他のお子さんに威圧を感じさせている。

その反面気が弱く恥かしがりやで、皆の前で一人ですること何もしやらない。けれど個人的に話し合いなどと思いがけないやさしい言葉がよくきかれる。

動作、態度はきびきびしているという方

はない。遊びは砂場、つみ木が多く、ブランコにはのるが、特にそういうものが好きであるとはいえず、俗にいう運動神経が発達している方とは思えない。

大体三才、四才の秋頃まではこういう様子でした。四才の秋の或る日、突然鉄棒に両足をかけてぶらさがり両手をはなして私にみせました。私は予想もしていなかった事、しかもその当時他にもう一人しか出来なかったようなことを突然やったので本当に驚いてしまいました。実は手をやいていた一人なので、私はこれを見て、さっと頭をかすめたものがありました。それは、こういう事をするようになったのが何かのきっかけになって何にでも自信がもてるようになるのではないだろうか、ということでした。それからつとめてその子の相手になって何かするようになしました。それで色々な話をしていううちに、お家に鉄棒が出来て猛練習しているのだ、ということを知りました。それでも、まんなかの組の時はいろいろ問題の多い方でした。

ところが、この四月から急に行動が衝動的でなくなり、落着きをみせ、人の言動にひきずられて行動するということが余りなく、か

えてそういうことを批判する言葉さえきかれました。家庭でも同じように落着いているので家の人に何か云われることがなくなつたため、反対に「どうしてこのごろ叱らないの」等と云ったりするそうです。

五才児になって、当然落着く時期がきたのだ、ともいえるでしょうけれども、この場合はそれと共に環境によって得た自信というのが、行動、大きくいえば性格というものに変影響を与えている、と考えられます。私があつと思ったときに感じたことが本当になりつつあるのを見て、うれしく思っています。（お茶の水大附属幼稚園教諭）

夏期保育講習会

七月二十三、二十四、二十五日の三日間日本仏教保育協会主催のもとに、夏期保育講習会が、文京区淑徳学園において開催された。

エリザベス・ピーボディと幼稚園



津 守 眞

「此の頃、エリザベスは何か思いに悩んでいる。若い時から本当にやりたいと思っていたことが、結局此の年になっても果せなかったことを考えているようだ。今までにやらなかったことで、自分自身にとっても、友達にとっても満足のゆくような何ごとかをやりたい、と彼女は思っているらしい。」これは、エリザベス・ピーボディの妹メアリー即ち、ホラス・マン夫人が、姉エリザベスについて、丁度エリザベスがそれまで盛にやっていたボストンのウェストストリートの本屋を閉鎖した頃の日記の中に書いた一節である。エリザベス・ピーボディは、アメリカにおける幼稚園の創設者として、日本でもかなり知られているが、ピーボディ女史自身については、書かれたものは少ないようである。最近、どういふ積極的な理由があつてか知らないが、「セイラムのピーボディ姉妹」という題で、ピーボディ姉妹の日記や手紙などを集めて伝記を綴つた書物がアメリカで出版されている。三百七十頁に至る大部の書物である。幼稚園の創始者として以外の、ピーボディ女史が詳しく描かれていて極めて興味深い。此の他、幾つか私ができることの出来た書物を併せて、エリザベス・ピーボディが幼稚園運動に乗り出す前に、彼女の心の中に動いていたものを探り出して、ここに簡単に紹介してみよう。

エリザベス・ピーボディは一八〇四年五月十六日にマサチ

ユセツト州のビレリカで生れた。そして死んだのが、一八九四年一月三日であるから、正に千八百年代のアメリカを、始めから終りまで生き抜いたわけである。そののみならず、精力的で才媛のエリザベスは、アメリカでも文化を誇るポストンにあって、当代の最高の文化人達と深く交わり、十九世紀のアメリカの文化を形作るのに蔭の貢献をなして来たという意味でも、十九世紀のアメリカを生き抜いた人である。十九世紀の有名なアメリカの文化人達の極めて多くが、多かれ少なかれビーボディ女史と交際し、彼女から影響を受けている。これが、一九五〇年になってまで、ビーボディ女史の日記や手紙が整理されて書物にされる理由であろうかとも思われる。以下少しく年代を追って彼女の生涯を眺めてみよう。

エリザベス・パーマー・ビーボディ (Elizabeth Palmer Peabody) の父親は、余り有能でない、齒医者だ。た。母親は、結婚する前から小学校の教師をしており、結婚後も引き続いて家庭で子供達を集めて学校を開いていた。此の学校でビーボディの有名な三姉妹は成長した。即ち、後のエリザベス・ビーボディ女史、ホラス・マン夫人及びナタニエル・ヒンソン夫人である。

エリザベスは生れながらに教えることに秀でていた。そして十六才の時には、早くも母親の学校で教え始めた。十八才の時に、エッセイストとして知られている。ラルフ・ウォル

ドー・エマーソンからギリシャ語の手ほどきを受けた。その時、エマーソンはまだ十九才の青年であった。エリザベスのすぐれた語学力に、エマーソンは驚嘆し、数ヶ月にしてもはや私には何も教えることはなくなった。と云って、教授を放棄したといわれる。しかし彼らの間の友情は、それから晩年に至るまで続けられた。二十一才の時に、エリザベスは、妹のメアリー、後のホラス・マン夫人と共に、ポストンの郊外の女子の学校の先生となった。彼女の先生ぶりがどんなものだったか、又彼女らの育った母親の学校でどのような教育が行なわれていたかを知る具体的な材料はないのであるが、エリザベスはその教育方法を母親から受けつぎ、それは当時にありがちな強制的方法ではなく、むしろ紳士的な礼儀正しい雰囲気を作ることを通して行なわれたと云われる。エリザベスは日中教えて、夜は附近の牧師、ウィリアム・ユレリー・チャニング博士 (William Ebery Channing) の助手として働いた。彼は心の寛い人物であり、むしろ自由な神学的解釈をする人であり、著書も幾つかある。若いエリザベスは彼に傾倒し、特に、型にはまらない自由な批判をすることにおいて、彼から多くの影響を受けた。そしてエリザベスの晩年になって彼が死ぬまで、友情は続いた。一八二八年、エリザベスは、アメリカ教育協会 (National Education Association) の初期の指導者の一人であり、アメリカ教育雑誌 (

American Journal of Education)の主筆である。ウイリアム・ラッセル (William Russel) の経営する学校の教師となった。此の仕事の給料によって彼女は両親や妹の生活を支えることが出来たので、全家族はエリザベスに頼ってボストンに移って来た。此の時代以来、エリザベスの家族を支える生活が始まった。丁度此の時代に、ピーボディの姉妹は、後の偉大な教育学者であるホラス・マンと識り合い、ホラス・マンは秀でた才媛の姉妹の家に毎日のように足を運んで、彼女らと何時間も議論を戦わしたのである。エリザベスが精力的で頭がきれ、交際家であるのに対し、次女のメアリーは引込思案のおとなしい性質で、議論はどちらかと云えば、エリザベスに独占され勝ちであった。メアリーはいつも傍で耳を傾けていた。末の妹のソフィアは絵を好み、芸術的な感覚の持ち主であった。それからずと後になって、メアリーがホラス・マン夫人となるのであるが、此の期間のピーボディ家の居間は若い人々の集会所で誠に興味深い。

一八三六年、エリザベスは、前述の学校をやめて、テンブルスクールという学校で教えることになった。此の学校はブロンズン・オルコット (Amos Bronson Alcott) によって設立されたものであり、エリザベスは一八三〇年以来、彼の進歩主義教育に感銘を受けていた。ブロンズン・オルコットは、有名な「若草物語」などの少女小説で知られている。ル

イーザ・オルコットの父であり、こういう関係で、エリザベスはルイーザの小さい頃からよく知って親しくしていた。テンブルスクールに移ったエリザベスは、しかし乍ら、直にオルコットのやり方に耐えられなくなった。オルコットは小心で臆病で、いつも一般に認められている考えから外れることを恐れていた。エリザベスにはその小心さが耐えられず、オルコットも、エリザベスの自由な大胆な意見が耐えられなかった。「人は少なくとも神の霊の一部を受けついで生れている」ということを信じていることが出来ないで、ただ人の心の罪のみ煩つている、小さな学者ぶつたオルコット」に、エリザベスは耐えることが出来なかつた。自ら述懐している。エリザベスは間もなく此の学校を辞した。しかしながら、此処でも亦、エリザベスはオルコットと生涯友情を続けるのである。

一八四〇年に、エリザベスは、ボストンに本屋を開いた。これはウェストストリート・ブックショップと呼ばれて、当時のボストンの文化人が寄り集まって議論や談話に花を咲かせる社交場となったのである。勿論、エリザベスは此処の女主人公であり、議論の接穂をする役目であった。此処に集まった人々は当時のボストンに寄る殆どあらゆる文化人、即ち当時のアメリカの文化人を網羅していた。自然詩人、ソロー (Henry David Thoreau) ホーレン (Ralph Waldo Em-

erson) オルロット、ホラス・マン、ホーンン (Nathaniel Hawthorne) 作家であり外交官であるローウエル (James Russell Lowell) 宗教家であり社会改革者であるパーカー (Theodore Parker) リブナー (George Ripley) 等々が絶えず出入し、哲学を論じ、芸術、詩を語り教育論を戦かわした。此等の人々について百科辞典でも見て頂けば、ピーボディ女史の教養を推察することが出来よう。此の本屋は十年間続くのであるが、その間に、次の妹がホラス・マン夫人となり、末の妹がナタニユル・ホーンン夫人となって、エリザベスは一人残されるのである。当時の彼女は、かのコンコード学派の一人であった。そして時は折しも南北戦争の直前であり、エリザベスは奴隷制度反対運動に深い同情を示していた。当時書かれたものの中には、人種問題に対して示された関心が種々あらわれている。彼女は又アメリカインディアンの教育の必要を説いた。それから又婦人参政権運動の先駆者でもあった。彼女の精力的な興味の方向がうかがい知れるであろう。しかし、彼女がこれらの興味への熱意をあらわな運動に示さなかったのは、彼女が支へなければならぬ家族のことを慮かってであつたといわれる。

エリザベスがウェストストリートの本屋を閉鎖した時に彼女は四十六才であつた。そして精力的な彼女はその晩年においてなすに値する何ものかを求めていた。「今までにやらな

かつたことで、自分自身にとつても、友達にとつても満足のゆくような何ごとかをやりたい、と彼女は思っているらしい。」と妹のメアリーが書いたが、ここでエリザベスの心の琴線にびんとふれたものが幼稚園運動だつたのである。本屋を閉じてから彼女が最初の幼稚園を一八六〇年に開くまでに十年の年月を経過している。此の間に彼女がフレイベルの幼稚園のことに付いて得た知識はごく僅かなものだった。一つは、これより少し前からウィスコンシン州のウオータータウンで自分の子供のためにドイツ語で幼稚園を開いていたカール・シュルツ夫人を知つたことであつた。一つは、時の文部大臣、ヘンリー・バーナード博士がロンドンの国際教育制度及び材料展示会に出席した際のフレイベルの幼稚園についての二頁ばかりの短かい報告であつた。もう一つは、クリスチヤン・ユグサミナー誌上にあらわれた幼稚園に関する最初の論説である。今これらの一つ一つについて解説するだけの紙数がない。しかし、たゞそれだけの幼稚園の知識が、何故エリザベス・ピーボディの心を揺り動かす力を持つたのであろうか。それは彼女の豊富な常識と経験によつて培かれた人間性に、幼稚園の原理が訴える所があつたことを見なければならぬだろう。一度び幼稚園教育の啓蒙と普及とに乗り出した後の彼女の活動ぶりは正に凄まじいものであつた。全国各地に遊説行脚して幼児教育の必要を説き(19頁に続く)

○夏の休みの一ときに、日頃の忙しい仕事から解放されて、ゆっくりとした気分でのその雑誌を手にして頂きたいと思い、いつもと違った形で八月号を編集した。いつも一つの職場で汗を流して仕事と取り組むことは大切なことであるけれども、私達は時々息をついて、広い世界の新鮮な空気を呼吸することが必要である。殊に幼児教育という人間の教育に携さわる者、広く人生の智慧を求めなければならぬ。幼児教育の鍵は、人生のあらゆる出来事。あらゆる出づけることが出来る、機会に至る所にあらねども、それを見出して利用することの出来る人は少ないと云われる。苛酷な失敗の経験の中にも、それをよりよく利用することによって、より一層の成功への道が開けている。人生の些細な事柄の中にも幼児教育のヒントが隠されている。私達、常に日を覚まして、鋭い耳を養っておかねばならぬ所以である。

編 集 後 記

○本号に特別に執筆された野口明氏は、国文学者であり、教育界の長老である。ゆっくりと氏の文章を味わいたい。多くの読者が児童文学を通して、親しんでおられる坪田譲治氏が、特に幼稚園で子供達と共に働いておられる方々のために、御執筆下さった。秋山ちえ子氏も、放送を通じておなじみの方が多いと思う。ブラウワー氏は数ヶ月の短い日本滞在中の忙しい時間を割いて、本誌のために御執筆下さった。日本文学者であり、外国人である氏の日本観察から我々も反省する所がある。○六月二、三、四日にお茶の水女子大学で行なわれた教育実践指導研究会の幼稚園の研究発表の一部を、今月号から分割して掲載する。本誌の九月号は例年のように、保育学界発表の特集である。暑い夏の間、読者の皆様の御健康をお祈りする。

幼児の教育 第五十三巻 第八号

定価金五十円

昭和二十九年 七月二十五日印刷

昭和二十九年 八月 一日発行

東京都中野区千光前町一〇

編集兼 倉 橋 物 三
発行者

東京都文京区大塚町三十五
お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町二ノ五

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

○本誌御購読についての御注文は発売所
フレーベル館にお願いします。